

社会福祉法人翠燿会

令和 5 年度事業報告書

特別養護老人ホームグリーンヒル
グリーンヒル短期入所生活介護
グリーンヒル居宅介護支援事業
グリーンヒルデイサービスセンター
グリーンヒル訪問介護
グリーンヒル福祉タクシー

特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台
グリーンヒル八千代台短期入所生活介護
グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業
グリーンヒル八千代台小規模多機能型居宅介護
同上 サテライト勝田台
グリーンヒル八千代台訪問介護
グリーンヒル八千代台キッズルーム
共生 café ふらっとホームグリーンヒル
グリーンヒル八千代台南デイホーム

障害児通所事業

グリーンヒルキッズ村上
グリーンヒルキッズゆりのき台
グリーンヒルキッズジュニア

自立援助ホーム

グリーンヒル若葉ハウス

八千代市勝田台地域包括支援センター
介護予防支援事業

法人本部総務課

令和 6 年 5 月

社会福祉法人 翠燿会

総括案 5年度の振り返り、6年度の方針共有。

社会福祉法人 翠燿会
常務理事 津川康二

新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行され5月8日で1年を迎えた。社会・経済の流れもパンデミック前の生活に戻りつつある中、当法人は5年度事業報告案、決算書案で示すように、非常に厳しい結果となった。既に本年度4月より、各事業所、特に上高野特養、デイサービスセンター等で具体的に対応策に取り組んでいるが、介護を要する在宅・入所の高齢者支援のみならず、児童支援ふくめ、今後も感染症予防対策を図りつつ、ご利用児・者の健康を守りたい。同時に個々人に寄り添い、潤いある生活をサポートする体制を強化してまいりたい。

4月には医療・介護・障がいサービスのトリプル制度改正、報酬改定が行われた。ひとつに「重層的支援体制の構築」属性を問わない相談支援、地域づくりに向けた支援等に着目する。次に医療ケア、認知症ケアを要する高齢者のニーズは高い。さらなる医療と介護の連携の推進は、他の事業所にはない、当グループ(医療法人社団恵仁会と翠燿会)の要である。地域包括ケアシステムの深化・推進を強化したい。

また介護報酬改正の大部分は処遇改善加算であった。国は一定の賃金改善を目指すもいまだ全産業平均賃金との格差は大きく、同時に介護人材確保の難しさも顕著でもある。が、この複数年パンデミックの中でも献身的にご利用児・者のサポートに専任し続ける従事者は270名を数える。

良質なサービス提供のために、研修計画の充実とあわせ、計画にそった利用稼働率を目指し、全職員の処遇改善を目指したい。

おわりに、八千代市の新たな3か年の保険料基準は月額5,640円で全国平均を下回る。しかしながら市内の介護事業所数は200か所を数え、施設系はサービス付き高齢者住宅、有料老人ホームを加え約50か所、通所系、訪問介護系も各々50か所とサービス供給体の激化は目立つ。(放課後等デイ事業も同様)

厳しい時代だからこそ、社会福祉法人としての使命・責任を全職員とともに再確認しあい、各事業に取り組んでいきたい。

なお、各事業の報告並びに今後の対策等は別紙のとおりである。

【令和5年度 特養・短期グリーンヒル 事業報告】

1) 目標稼働に対する実働状況

・令和5年度に於ける特養・短期の目標値115に対し、年間を通し108.4という結果でした。令和5年度の入院延べ日数は1061日、平均介護度4.3、要介護度4・5割合82.3%の数値。長期入所は36名を迎える事が出来ましたが、退所者が35名おり状態変化による急変や週末期の看取りケアを行い看取るご利用者も多数おられました。又、疾患などの医療度が高いご利用者も多く、施設での体調などの管理が難しく嘱託医の回診で、ご家族希望により入院に繋ぎながら多種職と協力し出来る限り施設での体調管理・生活支援を行っております。

施設内でのコロナウイルス感染によるクラスター対応。病院や他事業所でもクラスターなどで受け入れに時間がかかる事が多かった。又、入所申し込み待機者が減少がみられ、日常生活継続支援加算を継続するために、介護度3の認知度Ⅲa以上の待機者を優先するが、新規の長期・短期入所の受け入れ・目標値数の低迷になってしまった原因と考えられる。現在は、ご家族・病院・他事業所と連携し入所に向けて段取りを行っている。

※看取り 9名 急変対応 13名 入院中に他界 6名 長期入院 8名

2) 組織体制の強化

- ・接遇マナーや認知症の理解力など、個々人のスキルアップ・研修の必要性を強く感じました。
- ・職員全体の年齢層が高く職員の疲労度も増している為、職員の負担軽減と利用者が安心して生活が送れるよう環境面・介護ロボットなどの機械導入の必要性。
- ・医療度が必要なご利用者が増えている事から、痰吸引や経管栄養の補佐などに係る研修や外部研修の必要性を感じています

3) 感染症対策

- ・今年度も、施設内でクラスターを経験・対応しましたが、早期にゾーニング・隔離・職員配置などで、早期隔離解除に繋ぐ事が出来ました。皮膚トラブルは看護師の協力も得て、入浴や清拭着替えを行い清潔保持が出来ました。医療の連携や多種職の連携・情報共有する事で必要性の再確認を感じております。
- 5類となり、面会・外出などの緩和しておりますが、感染対策は継続しご利用者・職員が安全・安心に生活が送れるよう努める。

令和5年度 グリーンヒル特養・短期 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
月末利用登録者	98	99	103	101	102	100	100	101	103	100	102	101	1,210	100.8
入所延日数	2,943	3,044	3,042	3,129	3,134	3,023	3,132	3,000	3,147	3,194	2,893	3,140	36,821	3,068.4
入院延日数	43	65	92	85	104	133	142	49	62	82	85	119	1,061	88.4
利用実日数	2,900	2,979	2,950	3,044	3,030	2,890	2,990	2,951	3,085	3,112	2,808	3,021	35,760	2,980.0
1日平均利用者数	96.7	96.1	98.3	101.5	97.7	96.3	96.5	98.4	99.5	100.4	96.8	97.5		98.0
平均介護度	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1		4.3
(介護度4・5割合)70%	84.6%	86.1%	86.2%	85.9%	85.1%	84.6%	83.1%	81.8%	78.9%	77.6%	76.6%	76.5%		82.3%
新規入所者数	2	2	4	3	3	3	4	4	4	1	3	3	36	3.0
日常生活継続支援加算 (介護度4・5割合)70%	80.0%	86.7%	93.8%	89.5%	88.9%	82.4%	78.9%	71.4%	54.5%	55.0%	50.0%	55.0		527.6%
(内介護度4以上)	2	2	4	2	3	1	3	2	1	1	2	2	25	2.1
(内認知度Ⅲ以上)	1	1	3	3	3	2	3	2	4	1	0	3	26	2.2
退所者数	4	1	1	4	1	5	5	3	1	5	1	4	35	2.9
負担限度額認定者	49	46	47	48	45	48	48	50	49	50	46	51	577	48.1
短期請求件数	21	23	19	24	25	21	26	28	17	19	18	18	259	21.6
短期入所延日数	374	331	273	358	447	371	409	374	276	199	227	297	3,936	328.0
特養・短期合計延日数	3,274	3,310	3,223	3,402	3,477	3,261	3,399	3,325	3,361	3,311	3,035	3,318	39,696	3,308.0
特・短1日平均数(予算115人)	109.1	106.8	107.4	109.7	112.2	108.7	109.6	110.8	108.4	106.8	104.7	107.0		108.4
稼働率/120	90.9%	89.0%	89.5%	91.5%	93.5%	90.6%	91.4%	92.4%	90.3%	89.0%	87.2%	89.2%		90.4%
前年度稼働率	93.8%	93.0%	94.9%	96.7%	98.2%	96.0%	93.6%	94.1%	92.8%	91.2%	93.8%	93.3%		94.3%
前年度との比較	-2.9%	-4.1%	-5.4%	-5.3%	-4.8%	-5.4%	-2.3%	-1.8%	-2.5%	-2.2%	-6.5%	-4.1%		-3.9%

令和5年度 事業報告

グリーンヒル上高野 医務課

令和5年度（4/1～3/30現在）

新規入所者36名。看取りを含め、永眠された方は、39名。

インフルエンザ感染者1名。ノロウイルス、疥癬等の罹患者なし。

肺炎球菌ワクチン予防接種該当者4名実施。今後も継続していく事とする。

新型コロナ感染者 12/27～1/3…23名

1/28～1/29…6名

3/8～3/22…11名（SS含む） 計40名＋職員6名

前回のクラスター時の教訓を踏まえ、コロナ陽性者に対して、担当職員の配置調整、ゾーニング、治療薬投与を早期に始動することで、結果、コロナの拡大、重症化を最小限に抑えることが出来たと考える。

ここ数年、コロナ対応に振り回され、第5類となった今、対応、対策も基本的な部分の軸はブレることなく、少しずつ変えて、元に戻していく努力も必要と思われる。

最近の新規入所者については、持病の既往歴が多く、医療依存度の高い方が、増えてきている傾向にある。その方の健康管理は、単純でなく、複雑化している状況の中、より高い知識や、観察力が必要とされる。

又、令和6年度介護報酬改定項目に、協力医療機関との連携強化があげられており、

施設と医療機関の在り方、それぞれ重要かつ柔軟な対応が求められると考える。

令和5年度 管理部栄養課 事業実績報告

- 栄養課の理念
- ・ご利用者の健康状態や身体状況に応じた栄養管理(栄養ケアマネジメント)サービスを多職種と協力して行い、個人にあったADLの維持・向上に努めます。
 - ・ご利用者にふさわしく安全で質の高い食事サービスを提供します。

令和6年度
利用者食事摂取推奨量
(2020年度版、日本人の食事摂取基準に準拠)

GH	令和6年 4月1日 現在
エネルギー	1678kcal
蛋白質	67.1g

GH八千代台	令和6年 4月1日 現在
エネルギー	1722kcal
蛋白質	64.6g

令和5年4月～令和6年3月における利用者の実態

令和6年度 グリーンヒル入所計画				令和6年度 グリーンヒル八千代台入所計画			
	男性	女性	平均		男性	女性	平均
入所者	25 名	75 名		入所者	6 名	23 名	
年齢	78.8 歳	88.9 歳	83.9 歳	年齢	86.7 歳	89.2 歳	87.9 歳
介護度	3.9	4.2	4.1	介護度	4.3	4.5	4.4

令和5年度 グリーンヒル入所者実績				令和5年度 グリーンヒル八千代台			
	男性	女性	平均		男性	女性	平均
入所者	17 名	81 名		入所者	5 名	22 名	
年齢	78.5 歳	87.8 歳	83.1 歳	年齢	88.8 歳	89.6 歳	89.2 歳
介護度	4.1	4.4	4.3	介護度	4.3	4.4	4.3

令和4年、令和5年における
食数実績・目標数

食数実績	グリーンヒル		合計	グリーンヒル八千代台		合計	グリーンヒル 特養・通所 グリーンヒル 八千代台特 養・小規模多 機能	総合計食数
令和5年度	利用者	123949 食	132019 食	利用者	56876 食	62785 食		194804 食
	職員	8070 食		職員	5909 食			
令和4年度	利用者	129037 食	137911 食	利用者	57383 食	62945 食		200856 食
	職員	8874 食		職員	5562 食			

フードサービス形態
クックチル
A セントラルキッチン

給食業務完全委託方式
A グリーンヒル特養・通所
B グリーンヒル八千代台特養
給食業務直営方式
グリーンヒル八千代台・小規模多機能

A方式の帳票類は別途区分管理とする
・災害時発生時、食中毒・感染症発生時、グリーンヒル・グリーンヒル八千代台に属するマニュアルに準拠するように業務契約(BCP加筆)を締結した
・大量調理施設マニュアルに準じる
・食品衛生法の衛生安全管理の維持徹底(HACCP方式導入 R3.6月)
・特別な個別膳(ミキサー食)(やわらぎ膳 有料)看取り膳
・保存食・公衆衛生の実施(厨房内消毒4回/年・クリスラップ 1回/年)
・院外調理(ひまわり)→小規模施設(サテライトキッチン)
配膳・調理従事者の衛生管理(細菌検査 18回/年)
・備蓄食品(非常用食品)の保管・資料 献立表策定している
・特定給食施設栄養管理
巡回指導実施 千葉県習志野福祉センター グリーンヒル 実施なし
グリーンヒル八千代台R5.1.16

非常用食品の確保

・災害対策マニュアル策定
・天災害時の調理を必要としない
食事サービスとして備蓄食品

行事食

・施設諸行事に伴う食事支援

感染症対策マニュアル策定 BCP R3.3月
・敬老会祝い膳
グリーンヒル 利用者186食 職員 57食
グリーンヒル八千代台 利用者52食 職員7食 家族・来賓20食
・嗜好(刺身)1名 個人管理
グリーンヒル
定例 第3木曜日 午前9時30分～ 会議室 12回/年
グリーンヒル八千代台
日時不定期 1回/月

会議

栄養委員会
・給食会議(食事委員会と調整連携)
・NCM会議(低栄養者及びケアプラン委員会)

栄養ケア・マネジメント

基本方針
Ⅰ. 栄養ケアマネジメント 全利用者実施
4回/年スクリーニング実施
Ⅱ. 経口維持実施
経口移行 Ⅰ. Ⅱ
(医師・歯科医師による評価者)
Ⅲ. LIFE厚生労働省へ送信
科学的介護情報システム(LIFE)
栄養マネジメント強化加算
管理栄養士 新規1名配置

栄養管理

①栄養マネジメント強化加算(管理栄養士体制整備 GH3名 GH/八2名)
・LIFEデータ厚生労働省提出
GH 3月、6月、9月、12月(基準3か月毎)
GH/八 毎月(情報提供任意)
・IT化ブルーオーシャン情報共有
・生活と身体状況記録(介護・看護・栄養記録)
内容 身体計測、摂取目標量、摂取状況調査項目
栄養アセスメント・栄養ケア計画書(施設版)
*食事調査表は利用者の共有個別資料とする。
(但し、持ち出し禁止、厳守)
②低栄養リスクの改善として、栄養計画による
・食事・栄養管理、評価判定を行う。
・低栄養状態の改善目標として、栄養強化食品を推奨する
(但し、個別管理品は個人負担とする)
個別栄養強化 GH18名 GH/八7名
③看取り(EOL食 Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ期)実施

令和5年度の報告及び考課

①教育研修計画
・栄養ケアシステムの向上
②所轄保健所の巡回指導実施
③グリーンヒル(CK)とグリーンヒル八千代台(SK)の給食はデリバリー方式
グリーンヒル八千代台
・調理チーム結成(小規模多機能 サテライト グリーンヒル南デイホーム)(R4.5月廃止)
方式(CK)(SK)との業務は分離独自型
供食対象:利用者食・職員食
グリーンヒル南デイホーム
グリーンヒルから グリーンヒル八千代台へ移管
④施設管理栄養士のシフト体制
⑤給食栄養利用者向け広報誌発行
⑥臨地実習実施

・利用者全員の看護、介護、栄養の情報伝達の生活向上委員会などに出席した
・NCMスタディ(管理栄養士5名)1回/月 (給食・栄養管理の専門性向上目的)
内容:症例検討・栄養情報書作成
・給食栄養管理の改正に伴う帳票管理 GH、GH/八事業所 巡回指導の指摘なし
・給食経営管理部門としてクックチル方式全面委託化
業務委託、食材料費委託
及び院外調理(ひまわり)を導入した小規模多機能 クックサーブ方式
・CKグリーンヒルのイベント、栄養委員会など
グリーンヒル八千代台(SK)と連携・提携区分、分離区分を共有化した
※CK=セントラルキッチン SK=サテライトキッチン
・グリーンヒル 8:30～17:30(2名)9:30～16:30(1名)
・グリーンヒル八千代台 8:30～17:30(2名)
“食&栄養”おいしいお知らせ 4回/年
・昭和女子大学臨地実習 3年生 R5.9/13～17(2名)

以上

令和5年度 1丁目 すずらんフロア 事業報告

I. 介護理念

- 季節ごとの楽しみを持ち、一日一日を過ごせるよう支援していく

II. ケアの重点項目

【メリハリのある生活】

- 散歩・外出・外気浴を行い、草花を飾り季節の移り変わりを感じることができる。
⇒職員としてはコロナ禍もありなかなか実施できずに忸怩たる思いをしているができる限り苑内で出来ることは工夫をしながら行えている。

- ご利用者一人一人の能力が活かせるように生活のリズムを整える。
⇒24時間シートの活用や随時の見直しをすることによって生活が充実できるよう反映している。

- 音楽療法を行い、歌で季節を感じる事ができる。
⇒音楽療法の活用は継続していてその他にも演奏会への参加や、朝の集いやレクでの季節の歌を歌うことは毎日行えている。

【ご利用者様との信頼関係】

- 企画・誕生会で本人の要求をくみ取り、かなえられるケアを実施する。
⇒外出等のできない分、普段よりご利用者様との会話を増やし食べたいものの思い出や欲しい物のヒントを元に、考えながら実施できるように努力している。

- ご利用者一人一人と話す際は、穏やかにゆっくりとはっきりした言葉で実施する。
⇒実施が難しい項目ではあるも念頭に置いており、できない場合には反省しながら行なっている。

- 相手の視界に入るように自分の立ち位置等考えながら信頼関係を築く。
⇒ご本人の残存機能や不得手な事を考慮しながら行えるように今後も努力していく。

【清潔感のある空間】

- 換気やテーブル・手指の消毒を行うことで感染症の発生を抑え、清潔で安心して過ごせる環境、空間をつくる。
⇒残念ながら感染症は発生してしまったので、手順や方法については再確認や再認識をする。
- フロアの整理整頓を心がけ、ご利用者・職員共に常に動きやすい環境作りをしていく。
⇒ご利用者目線で動線を確認したり整理が必要ではなかったかと思える。

III. チーム目標

- 同じような事故が起こらないようにご利用者一人一人の情報共有を徹底する。
⇒事故報告書が一部でしか活用できていない。共通理解を今後も進めていく。
- 感染症の発生に十分注意を払い、異常の早期発見・早期対応ができるようにする。
- 一人一人にあった尊厳を持って、生活が楽しく過ごせるような時間を作る。
- 少しでもご利用者一人一人の記憶に残るようにゆっくりと関わるようにする。
⇒少しでも余裕を見つけて（または勤務外にも）ご利用者の話を傾聴する機会を作ろうと努力している職員も見受けられるので、相乗効果でフロアの雰囲気プラスの方向へ変わりつつあると思います。

令和5年度 1丁目 あやめフロア 事業報告書

I. 介護理念

- ご利用者一人ひとりに安心して快適・穏やかに過ごしていただく
- ・ご本人の状態変化に注意を払い、その方に合わせた介助を心掛けた。
 - ・前年度に続き、今年度もコロナ感染が発生してしまった。

II. ケアの重点項目

【コミュニケーション】

- ご利用者の視界に入りゆっくりとわかりやすく言葉をかける事により、ご利用者の反応や希望を引き出しより良い関係を作り、ご本人の希望を実施していく。
- ご利用者一人ひとりの状態や希望に沿った企画や外出の機会を作る事により、楽しみを持った生活を送っていただけるようにする。(誕生会・企画・その他隙間時間で実施)
- 日々のコミュニケーションの中での気づきを大切にし、情報共有することにより、その人のためのケアを実践していく。
- ・ご利用者とのコミュニケーションはまだ不十分であると思うが、以前よりも積極的に声掛けが出来た。
 - ・フロア全体で企画を行ない、元気な方々に楽しんでいただけたと思うが、重度の方々が満足できる企画が出来たかわからない。
 - ・意思疎通の難しい方に対して努力したが、できたかどうかかわからない。

【環境】

- 清潔で快適な環境を作り・維持する事により、感染症の発生を予防していく。
- 季節やイベントの飾りつけを行い、季節の変化を感じて頂けるようにする。
- 音楽療法を実施することにより、不安の軽減を行うと同時に感情・意欲の表出を支援して、生活の質の向上につなげる。
- ・コロナ感染が発生したが、フロアだけでなく、苑全体で取り組むことにより最低限で止められた。
 - ・季節の企画(スイカ割り・バレンタイン・花見等)を実施することにより、季節感を感じて頂けた。

【ケア】

- ご利用者の変化に合わせてポジショニングを行い、皮膚トラブルの発生防止と早期改善を行なっていく。
- 事故発生における対策の協議・共有化を行い、同じような事故の発生を防ぐ。
- 事前にご本人の意向を把握して、最期の時にご本人の意向に沿った看取りケアが出来るようにする。
- 身体ケアの際、優しく触れる事により『大切にされている』と感じて頂けるようなケアを心掛ける。
- ・新たな褥瘡発生なく、皮ムケ発生したが、すぐに改善見られており、皮膚トラブルの発生防止と早期改善ができた。

- ・事故発生の協議の場は限られているが、事故防止のために動くことが出来た。しかし、対応を苦慮する方々もいっしょに、完全には防げていない。

Ⅲ. チーム目標

- 日々のご利用者との関わりの中、ユマニチュードの実践で変化に気づき、状態に応じて柔軟に対応していく。
 - 職員一人ひとりが互いの事を考えて連携を図り、ご利用者に密なケア・より良い時間を過ごして頂けるようにする。
 - 最期の時まで穏やかに過ごしていただけるよう、ご本人の意向を尊重し、室内の環境を整え、音楽セラピーにより不安や苦痛の軽減を図り、安楽な介護を心掛ける。
- ・ユマニチュード委員会未実施もあり、ユマニチュードの接触的实践はできなかった。しかし、ご利用者の変化に気を配りケアを変化させて対応する事ができた。
- ・職員同士の連携は十分できており、今後もご利用者を主に置きつつ継続していければと思う。
 - ・穏やかな最期を迎えられるようにご利用者に状態に合わせたケアを心掛けた。

～総括として～

ご利用者一人ひとりのケアを心掛けて行った。新たな褥瘡の発生防止や皮膚ケの早期改善を行なうことが出来た。また、変化の早期発見にも努めてきた。しかし、不十分な点もあり、拘縮の進行予防や離床が来ていなかったり、その都度に対応で継続性に欠けていたりしている。

ご利用者個人の状態・要求やADLの変化に合わせて、職員間連携のもと、その方のためになるケアを行なっていく。

令和5年度 2丁目 大和フロア 事業報告

I. 介護理念

【 『一人ひとりと触れ合う時間を大切にし、お互いに笑顔で過ごしていく』

～想いを汲み取り、心の繋がりを大事にする～ 】

・一人ひとりではなく偏って個々の利用者と話してしまうことがあり、均等に話す事ができなかった。

・昔のこと（出来事やニュース）やテレビの話題などに触れ、利用者と話す事で表情を読み取れたのが良かった。

II. ケアの重点項目

【 健康に過ごせ、楽しみのある日常 】

●体操で身体を動かすだけでなく、脳の活性化を促す頭の体操も取り入れることでメリハリのある日々を増やしていく。

●天気が良い日には外気に触れる時間を多くして、ご利用者とのコミュニケーションを多くとれる環境を整え信頼関係を深くしていく。

●毎週金曜日の音楽療法に参加を促し、フロア全体で楽しみを共有する空間を提供する。

●担当ご利用者の誕生日企画は、ご本人の意向に添った企画を行い、毎月の企画でも季節に沿った手作りおやつや外出企画を行う。

↓

・午後の体操を毎日実施し、利用者に意識づけができたことは良かった。

身体を動かす意欲につながった。

・外への散歩がなかなか行えなかった。

・音楽療法や毎月の企画は楽しんでもらえた。誕生日企画も利用者の想いを聞きなら、担当が実施できた。

【 安らげる生活 】

●ご利用者とのコミュニケーションを図る際は、相手の目線に合わせて話し、相手の気持ち考えた丁寧な言葉遣いを心掛けていく。

●日々生活の中で変わりゆくご利用者の状況を見ながら、職員間での情報共有を行い、不適切ケアにつながらないように注意する。

●日々の換気、手指消毒など感染症対策を常日頃から意識し、ご利用者に安心できる生活空間を提供していく。

●ベッドメイキング、タンスの整理、担当利用者の意向に沿った心地良い居住環境を整えていく。

↓

・担当利用者の訴えに合わせながら、居室の環境（衣替え、配置等）を変える事ができた。

- ・ 事故事例が多く、安心安全に暮らせる生活環境が提供できなかった。
- ・ 職員間の情報共有がうまくできておらず、利用者への統一ケアができなかった。
- ・ 大和はフロアの一人待機が多く、職員に余裕がないことがあり、言葉遣いや行動に苛立った様子が出てしまい、利用者の目線に合わせて話す事ができなかった。

Ⅲ. チーム目標

職員一人ひとりが、日々の業務で利用者ファーストの気持ちを忘れずに持ち、利用者との関わりを大切にし、安心安全に過ごせる環境を作りだしていく。

職員の介護技術向上を図る為、ユマニチュードで学んだことを現場で活用する。

↓

- ・ 職員同士のコミュニケーションが取れる人と取れない人がいた。
- ・ 一人待機が多く、自分に余裕がなくなり利用者との関りが少なかった。
- ・ ユマニチュードを現場で実践していくのが難しい。

令和5年度 2丁目 撫子 事業報告

I、介護理念

【ご利用者一人ひとりの想いを大切にする】

- ・介護計画書に沿った介護をワーカーが把握し、統一した介護を行うことができなかった。
- ・各担当の職員や日々の職員の声掛けを通し、ご利用者の要望等を汲み取る事ができ、ご利用者の気持ちに沿ったケアを行えた。

II、ケアの重点項目

【想いに沿った計画の実施】

- 誕生会では、ご利用者の想いに沿った企画を実施する。
- ご利用者のリクエストに応じたおやつ作りを一緒に行う。
- 感染症の状態を見ながら、外出を行っていく。

↓

- ・誕生会のご利用者の話を聞きながら企画やプレゼントを用意することができた。
- ・感染症対策の為、思うようにできない内容もあったが、季節に沿った企画や手作りおやつを行い、ご利用者にも喜んでもらえた。また、対策が緩和され外出の機会が増えたことで、参加されたご利用者からは「外出できて嬉しい」と話されていた。

【ADLの維持】

- 朝の集い、リハビリ体操を毎日行い、身体を動かす。
- 音楽療法に参加し、楽しんで頂く
- 多職種と協力して、ADLの維持に努める。
- 外気浴、散歩を積極的に行ない、気分転換を図る。

↓

- ・感染症対策で利用者の行動を制限した時期があり、ADL低下がみられたご利用者もいた。
- ・朝の集いは他の業務の関係で時間が作れずにできない事が多かったが、夕方の体操は徐々に定着して、ご利用者も参加してくれた。
- ・音楽療法は楽しみにされているご利用者も多く、笑顔で参加されている。
- ・ご利用者のADL維持や快適な環境を作るため、多職種と協力して対応している。

【報告・連絡・相談】

- 申し送り内容は出勤者全員に伝え情報を共有する。
- 統一事項等は連絡帳に記入する。出勤時に必ず確認しサインする。
- 多職種とも協力してケアを行っていく。

↓

- ・職員間でのコミュニケーションや情報の共有が上手くできず、統一したケアを行

えていない部分があった。連絡帳の活用だけでは全員が情報を把握するのは難しい状況の為、新たに工夫して情報を共有できるようにしていくのが課題。

- ・同じご利用者に対して同じような事故報告(転倒・アザ等)が続くことがあり、事故に対し、しっかりとした検証や対策が行えていなかった。

Ⅲ、チーム目標

- 職員間で情報共有をしっかり行い、助け合いの意識を持ちチーム力を向上させる。
- ユマニチュードを学び、実践していく。

↓

- ・業務全体の流れの状況を把握せず、各自のシフト業務を優先してしまい、声掛けや助け合いが希薄になってしまう事があった。
- ・ユマニチュードについて学び実施していく事ができなかった。

令和5年度 3丁目 事業報告

I. 介護理念

【 笑顔 ～ハートフルなケアの実践～ 】

●ケアプランを基に介護計画書を作成、職員全員が把握し活用する事でご利用者様1人1人に合わせたハートフルな個別ケアを実践します。

↓

- ・介護計画書の活用に関して、職員全員が計画書の認知、及び実践まで繋げる事が出来なかった。
- ・計画書を把握している職員・把握していない職員とのケアが統一されていない事があった。
- ・臨機応変なケア（柔軟なケア）を考え、根拠を基に実践できる職員と、そうでない職員との差があった。
- ・ご利用者様の意見や要望を尊重し、ハートフルなケアを実践できた。ご利用者様の笑顔が多く見られていた。

II. ケアの重点項目

【 余暇活動の充実 】

●ご利用者の趣味・嗜好に合わせた企画、外出、誕生会を計画し実施します。

↓

- ・ご利用者様の趣味、嗜好、生活歴に合わせた誕生会を実施できた職員と、画一的な誕生会を行っていた職員との差があった。
- 毎日の余暇活動に、ご利用者の好む音楽やスポーツ・趣味を取り入れ、レクリエーションの充実を図ります。

↓

- ・1シフト（日勤）職員が増えた事で、日々の余暇の中にレクリエーションを実施する事が出来た。運動を取り入れたレクリエーションの実施や、個々に合わせた趣味の時間を設ける事も出来た
- ・遠出する事は出来なかったが、施設周辺の散歩に行ける時間が増えた事が出来た。

【 認知症ケア 】

●職員全員が認知症実践者研修を受講、ユマニチュードを活用する事でケアの質向上に努めます。

↓

- ・3丁目職員全員が認知症実践者研修を修了したが、学んだ事を活用できている職員と、そうでない職員との差があった。
- ・ユマニチュードに関しても、自発的に学び理解を深めて実践する職員と、そうでない職員との差があった。
- 多忙な業務の中でも「ゆとり」を持ち、雑音に気を配ると共に、生活の中に音楽を取り入れる事で認知症における周辺症状の予防・減少を図ります。

↓

- ・「ゆとり」なく業務に追われてしまっている職員と、そうでない職員との差があった。

- ・日によって（欠員など）「ゆとり」ある日と、そうでない日があった。
- ・タブレットを活用して、ご利用者様の趣味に合わせた音楽を聴いていただけた。

【 環境支援 】

- キャプションシートを使用、PEAP（専門的環境支援指針）に基づいて、ご利用者1人1人が安心・安全に生活できる環境作りを行います。

↓

- ・キャプションシートを活用することが出来なかったが、適宜不適切な点は指摘。リスクマネジメント委員会を中心に安心・安全に生活できる環境を適宜行えた。
- ご利用者が慣れ親しんだ家具を使って生活して頂けるように、居室担当を中心に、ご家族様と協力して環境支援を行っていきます。

↓

- ・感染症対策により、ご家族様の来設が難しく、馴染の家具を揃えるまでには至らなかったが、居室担当を中心に、ご家族様の写真や本人と家族の写真を持参していただく、軽微な日用品・衣類を持参していただくなどの工夫は出来た。
- ・施設内の老朽化が目立ち、修繕しても破損や劣化があった。
- ・中庭の整備を実施できなかった。

Ⅲ. チーム目標

- 職員間で情報共有を密に行い、多職種協同する事でチームケアを実践。PDCA サイクルを活用しADL、QOLの維持・向上に努めます。

- ご利用者の尊厳を尊重し、ハートフルな声掛けとコミュニケーションを行います。

- 経験則で物事を決めつけないで、根拠（エビデンス）に基づいた介護・業務を遂行します。

↓

- ・ブルーオーシャンシステムを活用しきれていない面があった。「記録」を入力する、読む時間が取れない時があった。「記録を見る」「細かく記録する」職員と、そうでない職員との差もあった。
- ・3丁目内での情報共有や協議は適宜行えていたが、他丁目・多職種との連携が上手くいっていないことがあった。
- ・ケア検討後、実践した後で評価する事が出来た。その中で問題点を見出し解決に努めていた。
- ・「ゆとり」がある日は、ゆっくりとご利用者様とコミュニケーションをする時間が作れたが、日によっては煩雑になってしまう事もあった。
- ・ご利用者様に対し尊厳を傷つけるような声掛けを指導しても、指導が上手くなかったのも同じことを繰り返してしまう職員がいた。配慮できる職員と、そうでない職員との差があった。
- ・介護職としての経験があるが故に、経験則でケアを実践してしまう職員と、根拠を基に工夫を凝らしご利用者様に不快の無いよう考えてケアする職員と差があった。

令和 5 年度 事業報告
グリーンヒル指定居宅介護支援事業所

1. 目標に対して稼働件数
・ 計画作成数・・・給付管理件数 132.5 名（月平均）
総合事業委託請求件数 20.9 名（月平均）
・ 目標稼働率・・・102.1%。
2. 事業継続計画（BCP）について
策定済み。研修は行っているが、シュミレーションまでは至っていない。
3. 虐待防止、ハラスメントの指針策定済み。研修実施済み。
4. 情報共有及びスキルアップについて
地域のケアマネのスキルアップとして他事業所との合同事例検討会を開催。
ケアマネネット研修等（外部研修）に参加し、他事業所との情報共有が増え、
各個人のスキルアップが向上した。
5. ICT（タブレット）を有効に活用し業務短縮となっている。

—総 括—

目標件数に関しては達成できたが、貴重な人材が離職してしまい、その後の人材確保も難しい状態となっている。よって「特定事業所加算Ⅱ」を策定できていたが、令和 6 年度から「特定事業所加算Ⅲ」となってしまった上、新規ケースも断らざるを得ない状態となっている。
現在、在籍しているケアマネがより意欲を持って仕事に取り込めるよう研修機会の確保や環境を整えることは当然として、新たな人材が確保できた時にも、定着できるようバックアップをより強化していきたい。

令和5年度事業報告

通所介護

1】 令和5年度利用状況（本体通所介護）

- 今年度は、一日の平均利用者数 25 名を目標にサービスを行ってききましたが、年間を通しての一日利用者の平均としては 20.6 名と前年度より 1.4 名の減、年間の延べ利用者数は 6,387 人で前年度より 450 名程減となってしまった。

一年間での新規利用者数は、21 名新規利用いただきましたが、利用中止者の人数が 20 名以上となってしまい、登録数を増やす事が出来ず厳しい現状であった。

コロナ 感染症についても、5 類に下がり状況は変わりつつあるが、今年度においても年明けの 1 月、2 月、3 月と感染者があり、特に 3 月は職員の感染も数名出てしまい、業務に支障がでてしまう状況もあり、利用者数の減に繋がってしまった。

今年度も赤字決済となり、一年間を通じて厳しい現状であり、次年度については人件費の削減など今後の運営について検討していきたい。

令和5年度 グリーンヒル デイサービス 実績報告

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
登録人数	63	64	65	65	66	68	68	66	67	64	65	63	784.0	65.3
利用者数	60	59	58	58	59	63	61	63	61	60	60	57	719.0	59.9
新規利用者	3	2	1	0	4	4	2	1	3	0	1	0	21.0	1.8
登録中止利用者数	2	0	0	0	3	2	2	4	1	2	0	2	18.0	1.5
運営日	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	25	26	310.0	25.8
延べ人数	535	562	539	520	553	564	576	583	550	458	490	457	6,387.0	532.3
総合事業人数	2	2	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	35.0	2.9
													0.0	0.0
要介護人数	58	57	55	55	56	59	58	60	58	57	57	54	684.0	57.0
合計	60	59	58	58	59	63	61	63	61	60	60	57	719.0	59.9
平均介護度	2.1	2.1	2.1	2.1	2.2	2.2	2.2	2.3	2.2	2.3	2.3	2.3		2.2
1日平均利用者数(予算26人)	21.4	20.8	20.7	20.0	20.5	21.7	22.2	22.4	21.2	19.1	19.6	17.6		20.6
前年平均利用者数	22.8	23.7	23.5	22.2	21.3	23.5	24.7	21.5	17.6	19.5	21.9	21.4		22.0

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
要支援1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11	
要支援2	2	1	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	24	
要介護1	15	14	12	10	10	11	13	12	11	12	11	9	140	
要介護2	24	25	26	27	28	29	28	28	28	26	26	24	319	
要介護3	12	12	11	12	11	12	10	13	13	13	14	15	148	
要介護4	5	3	3	3	4	4	4	4	5	4	4	4	47	
要介護5	2	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	31	
人数	60	59	58	58	59	63	61	63	62	60	60	57	720	

令和 5 年度訪問介護事業所報告書

グリーンヒル指定訪問介護

1. サービスの重点目標の達成度

- 1) 訪問介護サービスマニュアル「ハート・トゥ・ハート」に沿ったサービスの実施
- 2) ヘルパーとしての介護技術向上を目的とした研修の実施。
- 3) 安全な移送サービス、通院等乗降介助の実施。
- 4) 八千代市全域を対象としたサービス展開
- 5) BCP 策定。

⇒毎月の研修を通し介護技術の向上に繋がり、大きな苦情もなかった。

⇒BCP 策定済み。令和 6 年度には研修及びシュミレーションを実施予定。

2. サービス実績目標の達成度

目標人数 平均 65 人/月

実績人数 平均 52.3 人/月

うち要介護人数 平均 38.5 人/月

要支援人数 平均 13.8 人/月

通院乗降介助のみ 9.5 人/月

ー総括ー

- 1) それぞれのヘルパーとしての技術力は認知症への対応力も含め非常に向上しており、他の事業所のケアマネや地域包括支援センターからも高い評価を得られている。
- 2) 令和 6 年 1 月に提供責任者 1 人が異動となった上、職員のコロナ感染も重なり、急遽他部署の助けを借りながら、提供。現時点（R6.5）でも続いている。そのため新規ケースの受け入れは中止している現状。

<対策>

◎登録ヘルパーの高齢化、人材不足への対応、職員への過剰な負担が生じないように、業務の効率化を図っている。

→サービス曜日や時間の変更を利用者・家族にお願いし効率良く回れるようにしている。

→介護タクシー担当職員の有効な働き。

【令和5年度 事業報告】

特別養護老人ホーム グリーンヒル八千代台

短期入所生活介護 グリーンヒル八千代台

1. 目標稼働・目標施策（令和5年度）の達成状況（○数字はR5事業計画の原文）

①稼働率（長期＋短期）：長期入所者の安定稼働（入院者低減・空床期間短縮）。

・年間稼働率 99.74%目標（長期+短期：39床に対し 38.89名以上の稼働）

⇒【未達】月平均 38.86名（年間稼働率 99.63%）

②日常生活継続支援加算の算定継続（46単位/日）

⇒【達成】下記要件を算定根拠とし継続

・新規入所者の内（前12ヶ月）介護度4・5の割合：70%以上

…年平均 100%（長期入所者全体 年平均介護度 4.41）

・新規入所者の内（前12ヶ月）認知症度Ⅲ以上の割合：65%以上

…年平均 76.2%

③認知症専門ケア加算（Ⅱ）の算定継続（4単位/日）。

⇒【達成】認知症専門ケア加算該当者：21/29名（全体 72.4%）（3月末時点）

④施設内での看取り介護を継続して推進し、看取り介護加算の算定継続。

⇒【達成】退所者7名中5名（71.4%）の看取り介護を推進。

④褥瘡マネジメント（13単位/月）・排せつ支援（15単位/月）両加算の算定継続。

⇒【達成】入所全利用者対象。LIFEを用いて報告を提出。

⑤栄養マネジメント強化加算（11単位/日）の算定また経口維持加算の算定継続。

⇒【達成】入所全利用者対象。LIFEを用いて報告を提出。

⑥口腔衛生管理加算（Ⅱ）（90単位/月）の算定継続。

⇒【達成】提携歯科（寒竹歯科医院）との連携。LIFEを用いて報告を提出。

⑦個別機能訓練加算（Ⅰ）（20単位/日）（Ⅱ）（20単位/月）の併算継続。

⇒【達成】入所全利用者対象。LIFEを用いて報告を提出。

⑧短期入所生活介護の加算算定継続

看護体制加算・認知症専門ケア加算・機能訓練体制加算等

⇒【達成】看護体制・認知症専門ケア・夜勤職員配置・機能訓練体制加算等

⑨ICTの活用による生産性の向上とコストカット（介護資材費用等）を推進するとともに事故発生の防止（事故件数減）に努める。

⇒【未達】令和4年度 転倒事故件数 40件→令和5年度 事故件数 51件

→導入後、機器の設定等使用方法の理解が不足（不慣れ）。年間を通して機器設定方法と期待される効果を周知。利用者の特徴に合わせた機器種類の選別においても各職員と共有を図る。

⑩サービス担当者会議及び多職種カンファレンスの強化継続。

（介護計画、看護、機能訓練、栄養ケア計画書の専門・個別化）

⇒【達成】状態変化者を中心にカンファレンスを実施。利用者本人の状態像について共有を図り、看取り介護の推進等加算の該当に繋げることができた。

2. 今年度の実績（反省）

①感染症拡大防止への取り組み

・年間を通し、職員各自が健康管理に留意することで運営の継続が可能となる。

下半期に感染症クラスターを経験、事前申告（体調不良時の出勤相談）の重要性、利用者発熱時の管理体制等、今後の感染症防止における注意点（反省）を再確認した。

②稼働率（長期＋短期）の維持

- ・利用者の健康管理（検温・誤嚥性肺炎や尿路感染症予防等）また ADL の維持に対し、各専門職が協働することで前年度と比較しての入院者は減少。また積極的に緊急利用者、困難ケースの受入を図ることで年間の稼働率を維持することができた。

③地域活動・地域貢献・地域連携

- ・ふらっとホームの継続、地域活動サークルまた近隣教育機関への専門職派遣等、住民との交流機会が増えたことで、施設との関係性がより深いものとなった。また、地域住民との合同防災訓練を実施。福祉避難所としての役割を再認識し、震災時等における連携について共有を図ることができた。

3. 令和5年度 特養・短期の実績

令和5年度 グリーンヒル八千代台 特養・短期 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
月末利用登録者	27	27	24	26	27	27	27	27	28	27	27	29	323	26.9
入所延日数	805	837	779	802	821	810	837	810	855	861	798	874	9,889	824.1
入院延日数	21	91	79	40	0	0	0	0	7	2	47	34	321	26.8
利用実日数	784	746	700	762	821	810	837	810	848	859	751	840	9,568	797.3
1日平均利用者数	26.1	24.1	23.3	24.6	26.5	27.0	27.0	27.0	27.4	27.7	26.8	27.1		26.2
平均介護度	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4		4.4
(介護度4・5割合)70%	92.6%	92.6%	91.7%	92.3%	93.1%	93.1%	93.1%	93.1%	92.9%	93.1%	93.1%	93.1%		92.8%
新規入所者数	1	0	0	2	1	0	0	0	1	0	1	2	8	0.7
(内介護度4以上)	1	0	0	2	1	0	0	0	1	0	1	2	8	0.7
(内認知度Ⅲ以上)	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0.0
退所者数	1	0	3	0	0	0	0	0	0	1	1	0	6	0.5
負担限度額認定者	5	5	5	4	4	4	4	4	5	5	5	5	55	4.6
短期請求件数	26	29	32	23	29	27	24	24	25	25	22	24	310	25.8
短期入所延日数	373	455	470	447	389	360	372	360	363	344	307	377	4,617	384.8
特養・短期合計延日数	1,157	1,201	1,170	1,209	1,210	1,170	1,209	1,170	1,211	1,203	1,058	1,217	14,185	1,182.1
特養・短期1日平均数	38.6	38.7	39.0	39.0	39.0	39.0	39.0	39.0	39.1	38.8	37.8	39.3		38.9
稼働率	98.9%	99.3%	100.0%	100.0%	100.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.2%	99.5%	96.9%	100.7%		99.6%
前年度稼働率	100.1%	99.9%	100.0%	100.0%	99.2%	99.9%	100.2%	100.9%	99.7%	99.1%	100.0%	100.0%		99.9%
前年度との比較	-1.2%	-0.6%	0.0%	0.0%	0.9%	0.1%	-0.2%	-0.9%	0.5%	0.4%	-3.1%	0.7%		-0.3%
介護福祉士取得(非常勤含む)	21名	21名	21名	21名	21名	21名	21名	21名	21名	21名	21名	21名		

以上

令和 5 年度

グリーンヒル八千代台医務課 事業報告

グリーンヒル八千代台 医務課

今年度は新規入所者が 8 名、退所者 7 名。退所者の内訳として、看取りで永眠された方が 5 名、病院で永眠された方が 1 名、長期入院で退所された方が 1 名、入院者数はのべ 8 名だった。

看取り期に移行する際 看取りケアの充実させるため、ご本人・ご家族ができるだけご満足頂けるように、他職種との協働しながら その時を見極め事前にご家族と話し合う機会を設け準備し計画に沿ったケアを行った。

次に、今年度の褥瘡発生は数十年前に植皮した部位が剥がれるという重度のもの 1 件あった。皮膚科往診フォロー受けながら患部処置、減圧、栄養摂取の援助を行い患部上皮化し数ミリのクレーターを残すのみまで回復した。また 血行不良による水疱形成からの潰瘍形成多発したケースでは発症直後は炎症症状強く入院し、ENT 後から現在まで通院フォロー受けながら処置継続、古い箇所は改善傾向にありながらも、新しく水疱・潰瘍形成出現するなど 毎日の対応継続している。

感染症に関しては、1 月の末に新型コロナウイルス感染がご利用者からの他ご利用者・職員へのクラスター発生となり(ユニット 1 か所(9 名)と他 9 名 職員 17 名 計 35 名) 1 名は症状憎悪により入院一旦退院されたが 経口摂取安定せず再入院そのまま他施設へと退所された。他の利用者は嘱託医の協力(治療薬、対症薬の処方)、保健所の指導の下対応策し、罹患による症状、隔離による精神状態の低下など改善に至った。保健所主催の感染研修会 2 回(リモート・出向支援)を受け、改めて現状の新型コロナウイルス感染対策を学び対応策を改善した。新型コロナウイルス感染症が 5 類へ移行し面会は居室可となったが、今後も感染対策を重要事項として実践していく。

最後に、看護理念として掲げている、ご利用者がその人らしく生活できます様、他職種との協働・情報の共有、安全安心な看護、介護を提供し生活の質の向上を実践するために具体策を医務スタッフで話し合い委員会へ反映し介護職員との協働を行った。

リスクマネジメント委員会での内容を持ち帰り話し合うことで問題意識が向上し 介護上の問題点を医療の観点からアドバイスすることが出来 協働しながら改善に取り組めた。後もミス事故撲滅継続に努めます。

資 料

第 1 表 入院者数の推移（前年度比）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延人数	延日数	入院⇒永眠	入院3ヶ月越
R4年度	0	1	1	1	3	0	0	0	3	0	0	1	10	218	1	
R5年度	入院	2	1	1	0	0	0	0	1	1	2	0	8	321	0	
	長期入院			1							1		2			

第 2 表 令和 5 年度入院者・退所者（内訳）一覧

【グリーンヒル八千代台 入院者一覧】

入居者氏名	入院日	退院・(死亡)日	病 院	入院診断名	備 考
	R5.4.26	R5.7.18	勝田台病院	観察入院⇒胃婁造設	退院
	R5.4.28	R5.6.14	八千代医療センター	脳梗塞	退院
	R5.5.2	R5.6.30	島田台病院	肺炎・呼吸不全	長期入院
	R5.6.24	R5.7.24	島田台病院	肺炎・尿路感染症	退院
	R5.12.22	R5.12.30	東邦佐倉病院	慢性硬膜下血腫	退院
	R6.1.29	R6.2.22	セコメディック病院	肺炎(新型コロナウイルス)	退院
	R6.2.8	R6.3.4	最成病院	蜂窩織炎	退院
	R6.2.24	R6.5.11	セコメディック病院	脱水	長期入院

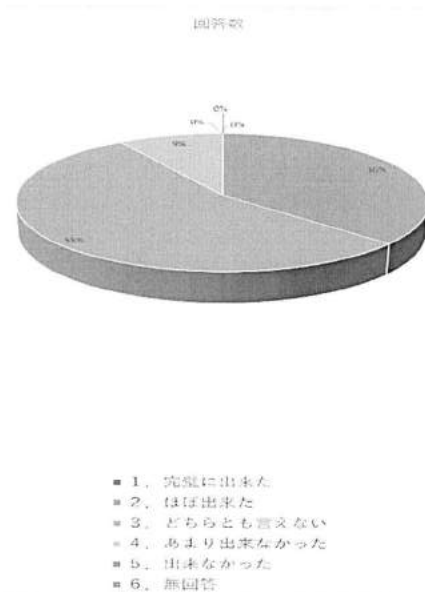
【グリーンヒル八千代台退所者一覧】

	GHY看取り 死亡退所	医療機関 死亡退所	長期入院	在宅復帰	その他: 本体・突然	合計			
H19年度	0	3	2	1	0	6	H19.10.1	～	H20.3.31
H20年度	4	8	2	0	2	16	H20.4.1	～	H21.3.31
H21年度	3	2	4	1	0	10	H21.4.1	～	H22.3.31
H22年度	0	1	2	1	2	6	H22.4.1	～	H23.3.31
H23年度	1	1	1	1	0	4	H23.4.1	～	H24.3.31
H24年度	3	4	2	0	0	9	H24.4.1	～	H25.3.31
H25年度	4	2	2	0	1	9	H25.4.1	～	H26.3.31
H26年度	11	3	2	0	0	16	H26.4.1	～	H27.3.31
H27年度	3	4	3	0	0	10	H27.4.1	～	H28.3.31
H28年度	4	1	2	0	0	7	H28.4.1	～	H29.3.31
H29年度	4	1	0	0	0	5	H29.4.1	～	H30.3.31
H30年度	1	0	1	1	2	5	H30.4.1	～	H31.3.31
R1年度	2	2	0	0	0	4	H31.4.1	～	R2.3.31
R2年度	2	1	1	0	0	4	R2.4.1	～	R3.3.31
R3年度	3	1	1	0	0	5	R3.4.1	～	R4.3.31
R4年度	6	1	1	0	0	8	R4.4.1	～	R5.3.31
R5年度	5	1	2	0	0	8	R5.4.1	～	R6.3.31

【Select Free】

I. 介護理念

「選択制のある生活と環境を」



選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	0
2. ほぼ出来た	4
3. どちらとも言えない	6
4. あまり出来なかった	1
5. 出来なかった	0
6. 無回答	0

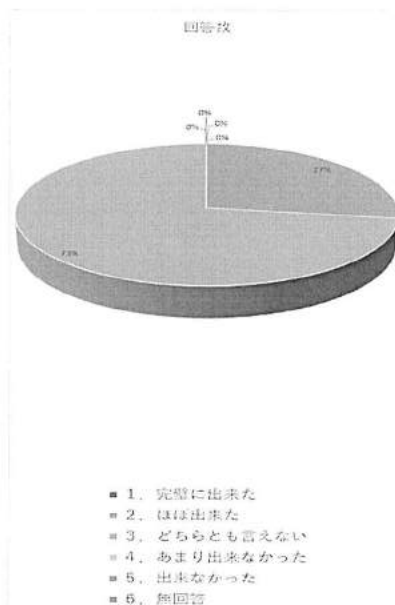
実績・反省

- ・1人1人の要望の全てを把握することができませんでした。再アセスメントを行い、1人1人の気持ちになって要望を1つでも叶えていきたいと思ひます。
- ・ご家族と調整し、一緒に誕生会を実施する事ができました。外出（希望の行先）や好きな物（外食内容）をご利用者本人に尋ねた上で企画を実施しました。
- ・ご利用者の要望や困りごとに対して早めの対応ができたと思ひます。自分の意思を伝えづらい方については、本人の思いや考えを自分に置き換えて想像し、会議等で話し合いを重ねながら対応を図ることが出来ました。
- ・担当の職員によって達成度の差（企画実施等意識の差）が大きいと思ひました。
- ・各ご利用者の性格や好み、過去の職業や生活歴を念頭にケアを実践することに努めました。ご家族との交流については、時間に制限がある中でも、企画内容などを話し合ったり、相談員を通じて意思疎通が図れていたと思ひます。
- ・ご利用者本意の個別ケアや自己決定に沿う形でのケアは概ね出来たかと思ひます。ご利用者の要望に対して、ご家族様を交えての話し合いが行えなかった点について、次年度継続して課題に挙げたいと思ひます。

Ⅱ. ケアの重点目標

1、【外出・面会の充実】

- ・外出企画の際には「外出先をご利用者と一緒に選択」して企画を実施します。
- ・ご家族に積極的なアプローチを図ることで、「一緒に外出」ができる関係を構築します。



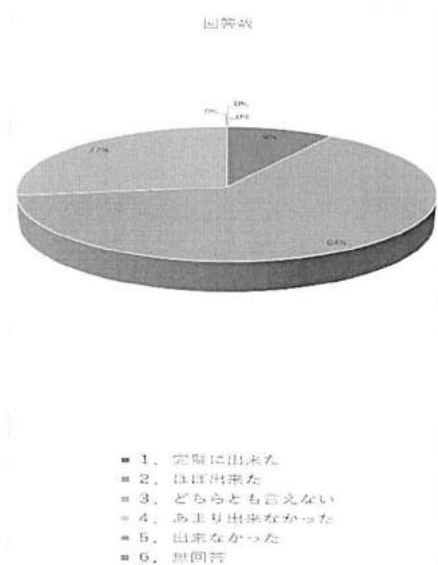
選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	0
2. ほぼ出来た	3
3. どちらとも言えない	8
4. あまり出来なかった	0
5. 出来なかった	0
6. 無回答	0

実績・反省

- ・コロナ禍であった為、一緒に外出するには難しさが有、実施出来ていなかった。
- ・季節を考えながらの外出が出来たと思います。ご家族へのアプローチに欠ける部分については反省が残ります。
- ・ご家族との調整を図り、自宅に外出する事が出来ました。外出企画では京成バラ園に行く事もできました。5類への緩和を迎え、公共施設への外出も可能となり、今後更にご利用者の皆様に楽しんでいただけるよう努力を重ねたいと思います。
- ・制限の内容に応じて可能な限りの外出企画を実施出来たと思います。面会においても、ご家族の来場頻度が増えており、ご家族と職員とのコミュニケーション機会が増えていることを実感しています。積極的な関わり合いをもち、関係性を築いた上で様々な企画を提案していきたいと考えます。
- ・ご利用者自身、外出先を決めるのが難しいのではと考える時もありましたが、そのような際にご家族のご意見が必要になると実感できたことで自身の考え方を切り替える事ができました。

2、【食を楽しむ】

- ・ご利用者個人の嗜好品を把握し、移動スーパーや出前、ご家族の差し入れ、また毎月のイベント食等を活用し、「ご利用者と一緒に食べたい物を選択」して「食の楽しみ」を図ります。
- ・経管栄養の方は、その方の趣味趣向に沿った余暇活動を提供する事で代替とします。



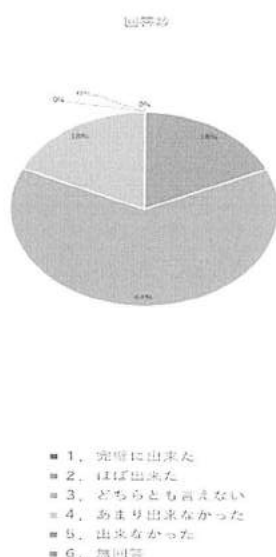
選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	1
2. ほぼ出来た	7
3. どちらとも言えない	3
4. あまり出来なかった	0
5. 出来なかった	0
6. 無回答	0

実績・反省

- ・移動スーパー時には本人の好きな物を好きなだけ買っていただけた。ご家族の差し入れ時には、持参していただけた事を伝えて必ず提供した。イベント食についても、ご利用者の意向を汲んだ上で企画を実施し、ご利用者の皆様に楽しみに繋げることができたと思います。
- ・移動スーパーでは、ご利用者と誘導する職員とのコミュニケーション機会として効果を得ることができ、会話の幅を広げる事にも繋がった。
- ・移動スーパーで買われる物を拝見し、その方の嗜好を知るきっかけになった。
- ・月2回の企画、移動スーパーでの買い物、4回のおやつ作り等、食については充実したケアが行えていた。
- ・企画で調理する食材の時点からご利用者と相談することができました。「幸せです、美味しかったよ」などの声をご利用者からいただき、成果を感じました。
- ・嚥下調整食を召し上がるご利用者へ向け、目で見て楽しんでもいただける配慮（色や形、盛り付け等）が不足してしまったと感じました。

3、【個別性】

- ・ 1人1人の生活歴を基に、PEAP（環境支援指針）とキャプション評価法を駆使し、ご利用者が居室内の家具等選択できる様な環境支援（共有空間の整備・居室の設え）を実践します。
- ・ 居室担当を中心に排泄支援計画書を作成、「実施・評価・検討」を行う事で、排泄ケアの充実を図ります。
- ・ ご利用者1人1人の生活歴を基に、今までの培ったノウハウを活用、入浴時間等を把握し、ご利用者が入浴方法を選択できるよう介助を実施します。



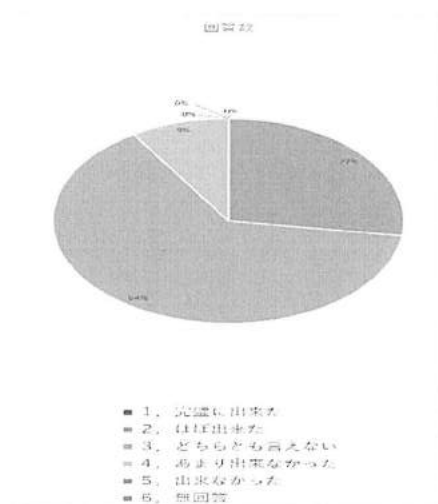
選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	0
2. ほぼ出来た	2
3. どちらとも言えない	7
4. あまり出来なかった	2
5. 出来なかった	0
6. 無回答	0

実績・反省

- ・ 個室の整備やリビングの整備等を細かく行いました。次年度には更なる面会制限の緩和が予測されますので、継続意識をもって業務に努めたいと思います。
- ・ 入浴時間の希望等をご利用者に聴取する事に努めた。感染症予防と並行する中で、可能な限り希望には添えたと実感しています。
- ・ 入浴希望時間に合わせ、夜間浴を再開することができました。
- ・ 人員の都合によってご利用者の入浴希望時間に合わせられない事もありました。職員の都合で時間帯を変更してしまう事もあり、ユニット職員以外との理念共有も必要であると実感しました。
- ・ 感染対応の期間もあり、ご利用者1人1人に対する環境支援は充分とは言えない。
- ・ 排泄支援については、今現在もアセスメントを繰り返し排泄表の改訂に取り組んでいます。引き続き職員間で連携を図りながら完成へ向けていきます。

Ⅲ. チーム目標

- ・学習療法（公文学習）をユニット全職員が実施できるように学び、要望のあるご利用者には週3回以上の学習療法を実施します。
- ・ご利用者が安心して生活できるよう、ユマニチュードの「見る」「話す」「触れる」を大切に、「優しい声掛け」「優しい介助」を実践します。
- ・多職種（看護師・管理栄養士・理学療法士・ケアマネ等）と、ご利用者1人1人のケアを検討し、日々の生活が向上できるように努めます。



選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	0
2. ほぼ出来た	3
3. どちらとも言えない	7
4. あまり出来なかった	1
5. 出来なかった	0
6. 無回答	0

実績・反省

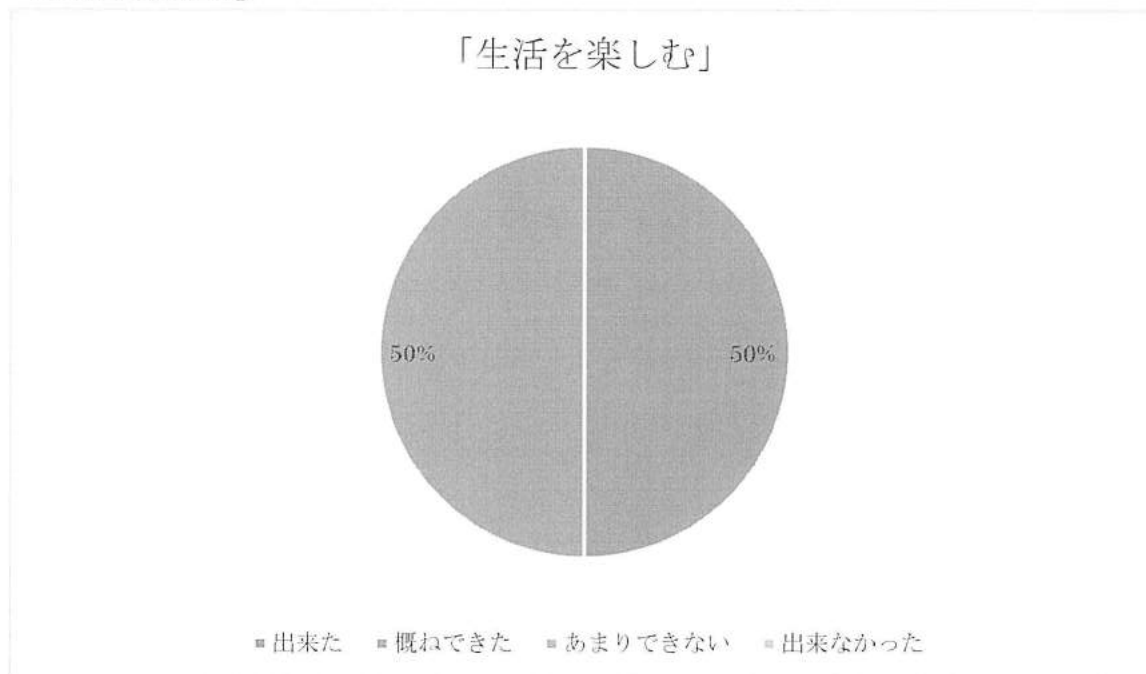
- ・ユマニチュードの実践が出来ていたと思います。
- ・ご利用者の安心に繋がる立ち居振る舞いができたと感じている。
- ・ユマニチュードを常に意識してケアを行いました。ソワソワしているご利用者に対して実践すると、短い時間ですが安心して過ごしていただきました。
- ・意識して「話す」ことは出来ましたが、優しいかどうかを問われた際には何とも言えないと実感しています。継続して優しい声掛けを目指していきます。
- ・優しい声掛けや優しい介助は心掛けているが、日々の生活の向上においては考え方を見つめ直す必要があると感じました。
- ・全ユニット職員が公文学習に携わることができませんでした。積極的に係る姿勢を増やしていく必要があると考えます。

以上

【こころまかせ】

I. 介護理念

「生活を楽しむ」



実績・反省

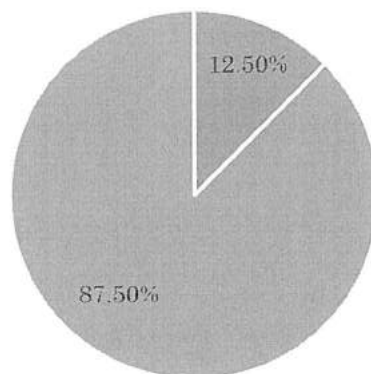
- ・ご利用者の気持ちに合わせたクラブ誘導、毎月の企画へ皆さんにご参加をいただき、楽しんでいただけたと思います。
- ・日々のコミュニケーションにおいても、写真や本を話題に出し、回想法を取り入れながら思い出を引き出すことで、ご利用者の笑顔が多くなってきた。
- ・ご家族も含めた行事（母の日・敬老会・クリスマス会等）の実施や、面会での交流が増えてご利用者ご家族も大変喜ばれていました。
- ・普段の食事では召し上がれない「手作り料理」など、出来る限りご利用者に喜んで頂けるような企画を立案しました。
- ・誕生日の方には、当日に「お誕生日おめでとうございます」と伝えるように心掛けました。（1年に1回の大切な日なので）
- ・外出が出来ない状況でも、「今日はとても良い天気ですよ」「今日は気温が高くてあたたかいですよ」などご利用者へ話題を振りリビングの窓を開けて外気に触れていただけるよう配慮に努めました。
- ・引き続き本人の思いについてはアセスメントが必要と考えます。

Ⅱ. ケアの重点目標

1、【一人ひとりの個性を大切に】

- ・季節に合わせて外出・外食企画を実施します。買い物も目で見て選べるように外出や移動スーパーを活用し、楽しみのある生活を送れるように努めていきます（お楽しみ会・イベント企画・誕生会）。天気の良い日には散歩や外気浴にお誘いします。
- ・ご利用者の要望や希望、生活歴をご本人や家族に聞き取りを行い、日々の生活に活かします。それを会議で他職員と共有し介護計画書や24時間シートに反映します。
- ・温かい食事の提供・羞恥心に配慮した排泄介助・安心して暮らせる居室の設えを行います。

「一人ひとりの個性を大切に」



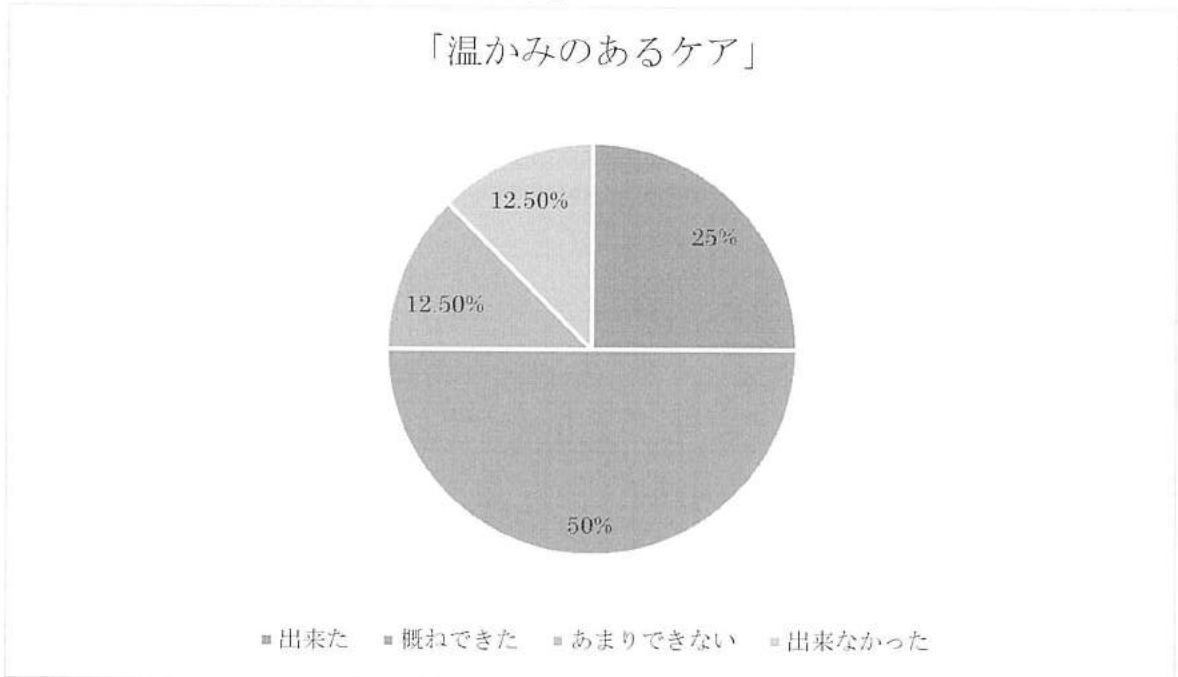
■ 出来た ■ 概ね出来た ■ あまり出来ない ■ 全く出来ない

実績・反省

- ・「外出を増やしたい」という当初の職員の思いも反映されて、ご利用者と様々な場所に出かけることができました。
- ・会議等では、ご利用者1人1人の現状や性格を考慮しながらの討議ができ、その討議内容をケアに反映できていたと思います。情報の共有も図りやすかった。
- ・出来る限り温かい食事を提供し、盛りつけも美味しそうに見えるように心掛けました。また、時間を見つけてはタンスの洋服を整理整頓したり、枯れている花を処分したりと気が付いた事を行うよう努めました。
- ・ご利用者の個性を大切にして、イベント食や誕生会を実施できたと思います。
- ・誕生日会では数年ぶりに外出を行うことができ喜んで頂けました。
- ・居室の設えに関してはあまり進めることが出来なかった。

2、【温かみのあるケア】

- ・ユマニチュードの「見る」「話す」「触れる」を大切にしていきます。
- ・「優しいケア」を目指して接していきます。



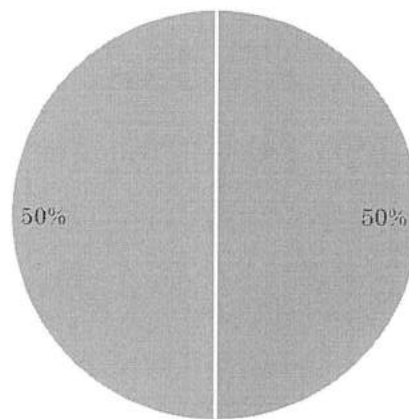
実績・反省

- ・ユマニチュード（手法）に対する理解を深め、積極的に実践することで職員間の周知につながったと思います。
- ・ユマニチュードを日々のケアで心掛けていました。
- ・相手の立場や気持ちを念頭に置いた声掛けや接遇に努めました。
- ・研修を通じて学んだ方法を強く意識して担当利用者への関わりを続けています。
- ・ご利用者の隣に座って会話する事を意識しましたが、満足のいく時間の確保ができませんでした。
- ・皆様に対しユマニチュードを実践する中でも、ご利用者の特徴によって接し方が見い出せずに悩むことも多くありました。

3、【身だしなみ・整理整頓】

- ・居室、リビングはベッド・タンス・洗面所・テーブルなどの整理整頓・掃除をし、気持ちよく生活ができるように心掛けます。
- ・常に洋服、髪の毛、目やに、手などが汚れてないよう清潔を保ちます。
- ・車椅子や座面クッションが汚れていないか確認して心地よく使って頂けるようにします。

【身だしなみ・整理整頓】



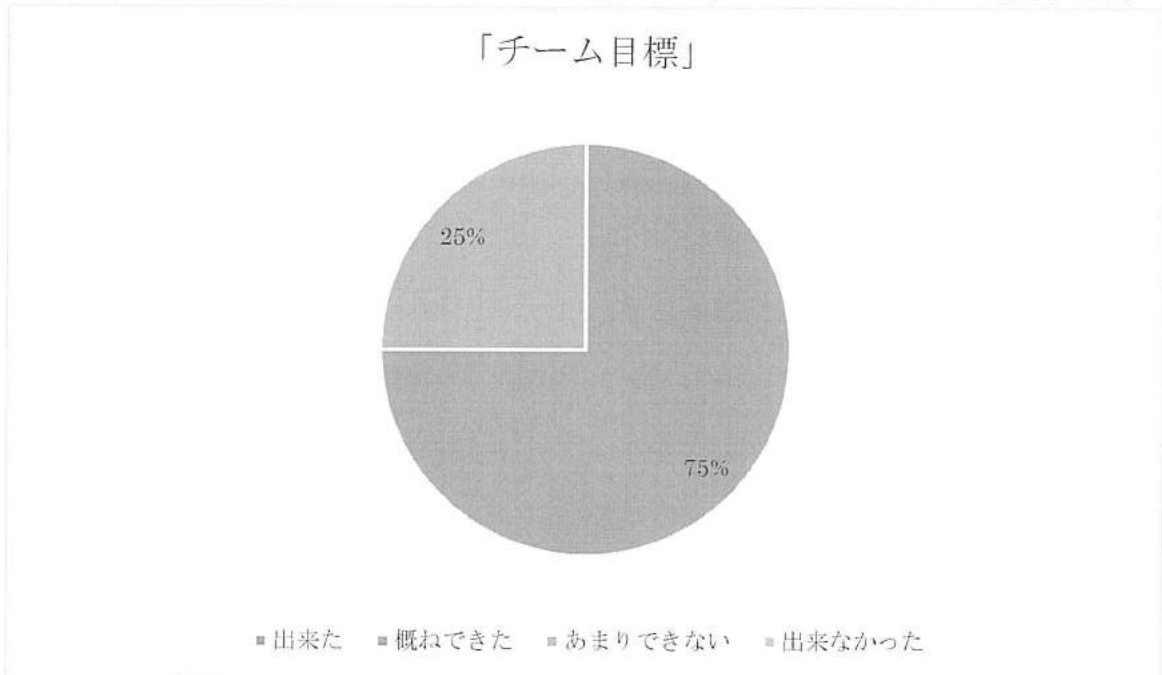
■ 出来た ■ 概ねできた ■ あまりできない ■ 出来なかった

実績・反省

- ・居室の整理整頓を意識し実践することができました。特に共同スペースでは、皆さまへ快適にお過ごしいただけるよう時間を決めて清掃作業を行いました。
- ・居室からリビングへご利用者を誘導する際には、髪の毛や目ヤニのないよう、整容に対する心配りを意識しました。
- ・車椅子の清掃に意識を向ける事ができませんでした。
- ・出勤時に各部屋を回り、その都度整理整頓やご利用者の身だしなみに目を向ける事に欠けてしまいました。
- ・爪の汚れ、爪が伸びている事に気付いても忘れてしまい、清潔を保持できない時がありました。また車椅子等の物品清掃についても、先伸ばしにしてしまう事がありました。

Ⅲ. チーム目標

- ・ご利用者が焦らないように「待つ」ことを心掛けます。
- ・職員間でも気持ちよく仕事ができるように言葉を選び、コミュニケーションを図ります。



実績・反省

- ・ご利用者のペースに合わせた介助を実践できたと思います。
- ・職員間では、お互いに感謝の気持ちを忘れず、コミュニケーションを図る事ができたと感じています。
- ・ご利用者様が焦らないような声掛け、またわかりやすく大きな声で声掛けをする事を心掛けました。
- ・忙しい時間帯等、職員同士で強い口調になってしまう時がありました。
- ・ご利用者が穏やかな気持ちで過ごしていただくためには、自分自身がまず穏やかな気持ちで安定していることがとても大切だと感じました。職員間でのコミュニケーションでも同様のことを感じました。自分自身が焦っていると全てが相手に伝わってしまうことを実感しました。
- ・忙しい時にはどうしても「待つ」ということが出来なかったように感じます。職員間でも同様、状況によってコミュニケーション(リアルタイムでの情報共有)がとれない事が多々あったように感じます。

以上

1. 目標稼働

- ・ 計画作成者数・・・ 要介護請求件数 月平均 95.9 件
要支援請求件数 月平均 14.8 件
- ・ その他加算あり

2. 令和 5 年度総括

- ・ 他法人との事例検討会につきまして令和 5 年度は、セントマーガレット病院居宅、在宅コーディネート八千代台、(グリーンヒル上高野居宅)と合同開催し、その後の支援に生かしました。
- ・ 12 月に運営指導が入り、日々の業務内容の再確認を行う機会となりました。
- ・ 外部研修は 30 種類受講し、受講した職員は所内で報告を行い、知識の共有を図りました。
- ・ 毎週 1 回居宅内での会議を行っており、事例の検討と共に各々のスキルアップや担当ケアマネの孤立防止を図っています。
- ・ 令和 4 年度から認定調査の受託を開始し、現在まで計 14 件の認定調査を行いました。
- ・ 本年度も他部署と連携し、インターフォンの来客対応・行事の際の設営手伝い等を行いました。
- ・ 令和 6 年度は多様化・複雑化する課題に対応するため、ヤングケアラー・障害者・生活困窮者等、他制度に関する事例検討会、研修等への参加が特定事業所加算の要件に加わりましたので、しっかり行っていきたいと考えます。

グリーンヒル八千代台 小規模多機能型居宅介護 【令和5年度 事業報告】

1. 目標

令和5年度の八千代台について

平均介護度 2.7（令和4年度）→2.9(令和5年度)

年間平均登録者 29 名（年間平均稼働率 100%）

看取り支援するケース3件(看取り加算)あり、地域包括ケアの一端を担うことができました。認知症状の方々を中心としたケアを実践し、生きがいや役割を持つことのできる生活を支えるため、サライト（勝田台）との協働によるきめ細やかな日常生活を支える多機能化を目指し、パラダイムシフトによる人員の確保と活用を行うこと目標としていたが、職員間のコミュニケーション連携等において互いに協力をして取り組む難しさがあった。

人材不足は法人内全体的におこっている状態だが、各事業所間での調整等点と点を結び付けた統括的体制が取る仕組みづくりが必要で、職員評価基準をおこなえるようにして、法人全体で人材確保に取り組む意識を持ち、法人本部中心とした体制を築くことが急務となっている。

2. 内容

ICTの活用「内線電話＝ナースコール＝センサー＝記録ソフト」の一气通貫システムをより効率的にリスクマネジメント等に活用し、運用できるようにしていくこと必要である。ご利用者おひとりお一人に寄り添ったサービス・関わり方を随時、職員で意見を話し合う機会は他部署も含め設けるようにして、情報共有に努め、少人数の会議になってしまうものもあったが、会議後に必ず会議録を発信、情報伝達するようにした。情報量が多い事もあり、全体での集約や把握がしきれていないこと多く、ブルーオーシャン・LINEWORKSをもっと効率よく活用するべく、様々な機能の試行段階である。

3. サービス提供について

カラオケ・コミュニケーションの活用機会も増え、ご利用者の表情の変化や運動機会を増やす促しにも繋げることができました。環境・空間作りについては「顔の見える安心感」の提供が出来たかどうか、課題が残った。勝田台ステーションギャラリーにも展示する機会をいただき、皆さんの作品をご披露する場、そして来場された方からのお声掛けがまた作品作りへの意欲になり、新たに個別レクも行事に取り組む動きもありました。災害対策について、福祉避難所に係わる行政との合同訓練実施、地域の方々、地域包括支援センターや民生委員の方々とも情報を共有及び訓練を行えたので、防災・減災について協力できる体制作りを継続していくため、今後も継続した訓練や研修を職員全体で取り組んでいきたい。

小規模多機能型居宅介護サテライト グリーンヒル勝田台 【令和５年度 事業報告】

1. 目標

令和５年度のサテライトについて 定員変更 登録１２名→登録１８名（令和６年３月）
平均介護度 2.1（令和４年度）→1.8(令和５年度)

年間平均登録者 12.5 名（年間平均稼働率 100%）

認知症状の方々を中心としたケアを実践し、生きがいや役割を持つことのできる生活を支えるため、本体（八千代台）との協働によるきめ細やかな日常生活を支える多機能化を目指し、パラダイムシフトによる人員の確保と活用行うこと目標としていたが、職員間のコミュニケーション連携等において互いに協力をして取り組む難しさがあった。看取りへの体制構築（医療/介護による多職種連携・病院/訪問看護等との協働）は、他事業所と共に協力して実施することで本人・家族支援が行えた。

人材不足は法人内全体的におこっている状態だが、各事業所間での調整等点と点を結び付けた統括的体制が取る仕組みづくりが必要で、職員評価基準をおこなえるようにして、法人全体で人材確保に取り組む意識を持ち、法人本部中心とした体制を築くことが急務となっている。

2. 内容

職場環境の整備・業務の明確化と役割分担・手順書の作成・記録、報告様式の工夫・情報共有の工夫を掲げ取り組んできたが、LINEWORKS・ブルーオーシャン等の活用を行うことで、八千代台・他部署と連携・委員会・会議等における情報の共有など多職種連携など、泊まり・訪問サービス時や受診時の情報確認など行うことが出来てきている。

事業所面積拡張により、ハード面のデメリットがあり、職員間の瞬時連絡体制を検討していくことが必要となっている。

3. サービスについて

勝田台ステーションギャラリーを１０月に八千代台の事業所・各サークル等と開催し、300人以上来場があり、小規模多機能型居宅介護のサービスを知って頂く機会となると共に、利用者自身も主体となった活動を行うことができた。勝田台フェス・防災訓練・サンコーポ美化運動、サンコーポ自治会と協働によりサンコーポ便りを発刊するなど地域の方々と繋がりを継続することで、地域拠点として役割を微力ではあったが担うことができた。

グリーンヒル八千代台 訪問介護

【令和5年度 事業報告】

1. 運営状況

昨年度の事業報告のとおり、需要の高い時間帯のニーズにこたえられないこともあり、不本意ながら事業として成り立っているとはいいがたい状況が続いています。改善の方策についてご助言いただきたいです。

<職員体制・研修について>

○管理者1名、サービス提供責任者1名、ヘルパー6名

・昨年に引き続き、個々の職員は体調管理に努め、特に登録ヘルパーは全員が一度のコロナ感染もなく、事業の運営に寄与されています。7月に事業所内で職員3名の同時感染がありました。ご利用者に負担をかけることがなく終息することができていますが、多機能・特養の主任の支援を得るという方策で感染を広げかねない状況であったことは反省点と思われまます。

・在宅ご利用者・家族はすでに体調不良時も検査等行わない傾向がより強くなっているため、今後も情報収集に努め、適切な対応をしていきます。現在はご利用者の状況に応じて、陽性の方への入室も行っています。（ご利用者からの罹患はありません。）

○研修についてはフォローアップ研修に加え、オンデマンド研修について積極的に情報収集。常勤職員ができるだけ視聴できるようにしています。事業所内ではありますが、参集研修も定期的に行うことができています。参加調整できなかった場合は、別日に伝達と研修を行なっています。同行訪問の形で現場研修は随時行い、スキルアップをはかっています。

2. 課題と今後の方針

今回の報酬改定で示されたとおり、訪問介護事業所はスケールメリットを最大限生かせる環境でないと事業の継続は不可能な状況です。昨年に引き続き目標値はさらなる下方修正が必要と考えます。

当面はケアマネージャー、ご利用者家族とも連絡を取り合って関係を構築し、サービス提供への支障を最小限に抑えられるよう努力していきます。

令和5年度目標値及び実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標人数	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
実績人数	33	33	33	33	31	31	33	32	32	32	30	28

以上

グリーンヒル八千代台キッズルーム報告書

八千代台総務課

2023年度の利用者延べ人数、幼児715名・学童96名でした。
 新型コロナが5類に移行されましたが、引き続き感染対策を講じて施設の行事に参加しました。

8月 9日（水） 夏祭り

ヨーヨー釣りやボールすくいを楽しみ、綿あめ・かき氷・焼きそばを食べました。

9月18日（月） 敬老会

ご利用者様にプレゼントを渡しました。

10月30日（月） ハロウィーン

仮装をしてご利用者様と触れ合い、お菓子を頂きました。

1月29日（月） 千葉県認可外保育施設に対する立入調査

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
幼児	58	50	40	46	56	60	64	70	66	60	64	81	715 名
学童	2	11	1	2	12	3	2	7	8	6	18	24	96 名
合計	60	61	41	48	68	63	66	77	74	66	82	105	811 名

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
幼児	31	23	22	20	42	35	23	23	33	53	62	70	437 名
学童	14	9	9	2	7	8	3	4	4	2	7	4	73 名
合計	45	32	31	22	49	43	26	27	37	55	69	74	510 名

以上

グリーンヒル八千代台南デイホーム
【令和5年度 事業報告】

1. 目標

地域密着型通所介護事業所(定員 10 名)

介護度 1.4(4 年 6 月)→2.4 (5 年 3 月) →2.3(6 年 3 月)

登録者 5 名(4 年 6 月)→14 名(5 年 3 月)→13 名(6 年 3 月)

1 日平均利用者数 1.3 名(4 年 6 月)→3.9 名(5 年 3 月)→4.6 名(6 年 3 月)

介護度・登録者の増加はできていないが、徐々にではあるが1日の利用者数は上昇させることが出来てきているので更なる目標へ向けて、事業所がより柔軟にサービスを提供できる人材等を含めた職場環境を法人本部と協働し整備していく共に、職員同士が積極的な態度で接し、互いに尊重し合えるチームづくりが急務の課題である。

事業所の（八千代台圏域外）知名度不足であり、現在登録者が居ない居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへの定期的な営業・周知に加えて、地域行事などで地域住民の方にお会いした際に積極的に紹介をしていくことが求められる。

2. 内容

毎月、定例会議・多職種連携会議を実施し、研修を行ない専門的知識・技術の向上・連携を図る体制の構築と共に、オンラインによる外部研修にも各自参加を行ない、個々のスキルアップに繋がるシステムが構築してきている。今後は事業所内職員間での伝達研修等をおこない報告・連絡・相談がおこなえるチームワークが必要となっている。

行事など含め、法人内の事業所間で連携していれば、より良いサービスを提供できた場面が多々あった。法人本部及びグリーンヒル八千代台とも協力関係を強固なものとしていくための体制づくりが必要不可欠となっている。

3. サービス提供について

季節に合わせたパン作り・大人の学校メゾットの活用、外出行事・作業療法士及び理学療法士による機能訓練、管理栄養士による栄養評価等を事業所の特色にしたサービス提供を基本として行うことができてきているが、外出や誕生会など画一的な行事となっている部分を特徴や個性を生かした活動としていくことが必要と考察している。

令和5年度ふらっとホーム実績

開催月			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間総計
開催数（回）			4	5	4	4	5	4	5	4	4	4	4	4	51
参 加 者 （人）	喫食	大人 300円	110	182	137	138	195	186	228	136	185	139	131	110	1877
		（うちボラ）	32	39	28	28	49	32	34	29	28	16	9	11	335
		（うち職員）	17	11	5	5	5	5	13	6	19	7	5	7	105
		子ども 100円	43	107	108	96	101	98	120	96	150	79	89	84	1171
		その他 0円	10	4	5	15	8	5	16	11	9	6	11	4	104
		学生 0円	0	0	4	2	6	6	4	2	2	1	0	1	28
		キャンペーン 0円	2	5	1	0	2	0	0	0	2	0	0	2	14
		施設ご利用者 （各部門で徴収）	0	5	9	14	12	12	12	11	10	8	12	11	116
		喫食者小計（人）		165	303	264	265	324	307	380	256	358	233	243	212
	未喫食	大人	8	9	11	7	17	9	12	4	6	10	7	9	109
		子ども	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3
	参加者計（人）		173	312	275	272	341	317	394	260	364	243	250	221	3422
	地域参加者数（人）		156	296	261	253	324	300	369	243	335	228	233	203	3201
行事等			西学 児童 おや つ体 験会	キ ッ チ ン カ ー カ レ ー フ エ ス タ			学 八 童 夏 代 カ レ ー 祭 り	西 八 学 童 敬 老 の 日 来 苑	学 ふ 八 童 ハ ロ ウ イ ン ス イ タ ベ ン ト （ パ ザ ー ） 参 加		西学 児童 ク リ ス マ ス マ ス 来 苑	学 童 サ ン タ ス マ ス 訪 問			

前年度比較（開催回数当たり）

年度	総参加数(人)		開催数(回)	平均参加数(人)	
R4	総数(職員等含む)	686	27	総数(職員等含む)	25.4
	地域大人	540		地域大人	20.0
	地域子ども	96		地域子ども	3.6
R5	総数(職員等含む)	3422	51	総数(職員等含む)	67.1
	地域大人	2030		地域大人	39.8
	地域子ども	1171		地域子ども	23.0

令和5年度 グリーンヒル八千代台 地域活動支援事業 予定/実績表

年	月	日	時間	主催	場所	内容	定員	名	参加人数	名
23	5	6	10～11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15名		9	
23	5	19	13:30～15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15名		9	
23	5	19	9:30:13:00	勝田台公民館:食まち勝田台	勝田台公民館	料理教室	8名		16	
23	5	26	10:00-12	八千代台西小:予防教室(栄養)	東南公共センター	認知症と栄養	20名		30	
23	5	30	10:00-12	勝田台公民館:予防教室(栄養)	勝田台公民館	高齢者の栄養	15名		15	
23	6	3	10～11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15名		5	
23	6	7	13-15	北東支会 認知症カフェ	北東自治会館	認知症予防に向けた、コグニサイズ			42	
23	6	12	9-12:00	八千代台西小	八千代台西小	車椅子等の教室			60	
23	6	12	13-15	西北支会 認知症カフェ	愛宕会館				26	
23	6	16	13:30～15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15名		5	
23	6	22	10:00-12	勝田台公民館:予防教室(栄養)	サンコーが集会所	生き生き教室 コグニサイズ	15名		9	
23	6	16	9:30:13:00	勝田台公民館:食まち勝田台	勝田台公民館	料理教室	8名		16	
23	6	21	13:30-15	勝田台公民館:予防教室(栄養)	勝田台自治会館	高齢者の栄養	15名		12	
23	6	27	10:00-12	千葉市:認知症サポーター	千葉市	認知症キッズサポーター養成講座	30名		30	
23	7	1	10～11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15名		10	
23	7	8	10～11:30	サンコーが集会所:黄いハンカチ	サンコーが勝田台	黄いハンカチ 防災安否訓練			24	
23	7	10	13-15	西北支会 認知症カフェ	愛宕会館	認知症予防に向けた、コグニサイズ			23	
23	7	10	10-11:30	勝田台公民館:マスコット作り	勝田台会館第5会議室	ロバ隊長マスコット作り	10名		9	
23	7	22	13-17	八千代台東小:かき氷機	八千代台東小学校	かき氷機材料一式貸出				
23	7	14	13:30～15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15名		5	
23	7	13	10:00-12	勝田台公民館:予防教室(栄養)	勝田サンコーが	夏を乗り切る栄養	15名		19	
23	7	19	13:30-15	勝田台公民館:予防教室(作法)	勝田台6丁目自治会	生き生き教室 フレイル予防	15名		12	
23	7	21	9:30:13:00	勝田台公民館:食まち勝田台	勝田台公民館	料理教室	8名		12	
23	8	10	10-11:30	勝田台公民館:マスコット作り	勝田台会館第5会議室	ロバ隊長マスコット作り	10名		10	
23	9	2	10～11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15名		10	
23	9	5	13:35-14:15	八千代市:認知症サポーター	八千代台西小学校	認知症キッズサポーター養成講座	65名		65	
23	9	11	13-15	西北支会 認知症カフェ	愛宕会館		20名		26	
23	9	15	13:30～15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15名		5	
23	9	6	9-12:30	千葉市:認知症サポーター	千葉市	認知症キッズサポーター養成講座	60名		60	
23	9	14	10-11:30	勝田台公民館:マスコット作り	勝田台会館第5会議室	ロバ隊長マスコット作り	10名		10	
23	10	3	13:30～15	勝田台公民館:予防教室(栄養)	勝田台南	栄養について	20名		16	
23	10	10	10～11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15名		10	
23	10	16	13-15	西北支会 認知症カフェ	愛宕会館				22	
23	10	20	13:30～15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15名		6	
23	10	20	10:00-12	八千代台西小:予防教室(栄養)	東南公共センター	免疫力と認知症	20名		20	
23	10	20	13:30-14:30	ともカフェ	勝田台会館第5会議室	(認知症カフェ)	20名		15	
23	11	4	10～11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15名		7	
23	11	13	13-15	西北支会 認知症カフェ	愛宕会館				28	
23	11	17	13:30～15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15名		中止	
23	11	17	13:30-14:30	ともカフェ	勝田台会館第5会議室	(認知症カフェ)	20名		13	
23	11	29	13:30～15	勝田台公民館:予防教室(栄養)	勝田台公会室	銀の四葉会	20名		8	
23	11	17	9:30-13:00	勝田台公民館:食まち勝田台	勝田台公民館	料理教室	8名		6	
23	12	2	10～11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15名		8	
23	12	11	13-15	西北支会 認知症カフェ	愛宕会館				27	
23	12	15	13:30～15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15名		8	
23	12	15	13:30-14:30	ともカフェ	勝田台会館第5会議室	(認知症カフェ)	20名		13	
24	1	6	10～11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15名		7	
24	1	8	13-15	西北支会 認知症カフェ	愛宕会館				31	
24	1	19	13:30-14:30	ともカフェ	勝田台会館第5会議室	(認知症カフェ)	20名		14	
24	1	26	13:30～15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15名		8	
24	1	26	9:30:13:00	勝田台公民館:食まち勝田台	勝田台公民館	男の料理教室			8	
24	2	3	10～11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操			8	
24	2	10	13-15	西北支会 認知症カフェ	愛宕会館		20名		26	
24	2	28	13:30～15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15名		8	
24	2	16	13:30-14:30	ともカフェ	勝田台会館第5会議室	(認知症カフェ)	20名		15	
24	2	9	9:30:13:00	勝田台公民館:食まち勝田台	勝田台公民館	料理教室	8名		7	
24	3	2	10～11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15名		8	
24	3	11	13-15	西北支会 認知症カフェ	愛宕会館		20名		33	
24	3	7	13:30～15	コグニサークル	阿蘇台公民館	コグニサイズ	15名		中止	
24	3	15	13:30～15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15名		中止	
24	3	15	9:30:13:00	勝田台公民館:食まち勝田台	勝田台公民館	男の料理教室			7	
24	3	15	13:30-14:30	ともカフェ	勝田台会館第5会議室	(認知症カフェ)	20名		20	
			13:30-15:00	八千代台元氣クラブ	南デイホーム	手芸等 [毎週水曜日]	定員 7人/日		延べ 196	

賞 栄養班[小川・保科・岡田] 検 体操班[大塚PT・武田PT] 青 地域班[内出・保坂・家田・野口] 緑 緑ヶ丘班[大竹・玉井] 桃 桃ヶ丘班[上田・花島]
 食街勝田台サークル 石川様 勝田台公民館(久保田様) 西北認知症カフェ 保坂・居宅・特養
 勝田台体操クラブ 紺様 コグニサークル 齋藤 様 ともカフェ 大竹・多機能

令和5年度 事業報告

グリーンヒルキッズ(村上)

1. 事業所目標について

① 稼働率 年間稼働率 82.5%

- ・新型コロナの5類移行により、利用状況も平常時に近づく傾向が見られた。しかし、利用者本人や家族の感染報告や、コロナ以外での利用者の体調不良や情緒の不安定さによる欠席も見られたため、稼働率が安定しなかった。令和4年度末に9名の卒業生を送り出したが、同数程度の新規利用者が集まらず、登録人数が伸びない中での運営となった。また、祝祭日や長期学校休業日等は利用者が減少するため、目標の稼働率を達成することができなかった。

2. 事業内容について

- ・児童一人ひとりに寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。
- ・学校での実態に合わせ、マスクの着用は利用者の判断に任せた。引き続き健康観察には留意し、座席のスペース確保や食事中の黙食等の徹底を図った。
- ・毎月の茶話会は感染症対策を講じて開催した。利用者の対象が小学生の為、ゆりのき台事業所と合同開催とした。

3. サービス提供について

- ・開設8年目となり、多数の卒業生がジュニアに移行したため利用メンバーの入れ替えがあった。新規利用者の特性の理解と療育方法について職員間で共通理解を図った。利用継続児童にはキッズ活動が定着しているが、さらなる学習支援・ソーシャルスキルの向上を目指して職員の資質向上を図るべく研修の強化・研鑽が必要である。
- ・3事業所となり、活動の幅が広がった。屋外活動や地域の行事への参加は、児童生徒にとって貴重な体験の場となった。中学生が加わったことで学年に応じた役割分担や多様な集団活動が可能になり、互いの交流が深まってきている。活動の様子は、ブログや毎月発行の利用申請書に写真と共に記載して保護者に発信した。

令和5年度 事業報告

グリーンヒルキッズゆりのき台

1 事業目標について

稼働率 年間稼働率 100%

コロナから脱して、社会体験・地域との交流も夏休みから再開し、活気ある活動を行うことができた。マスクが外せない子どももいるが、ほぼマスクなしの笑顔がみられ、通常的环境に戻ったことで、様々な場面で社会性を育み、明るくのびのびと子どもらしく過ごすことができた。

2 事業内容について

- ・児童一人一人に寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。
こどもが高学年になるに従って指導内容もむずかしくなるので、職員の教科指導に関する研修時間を増やし対応している。
- ・不登校の児童・問題行動には、24 時間体制で対応している。関係機関との連携を図り、個々の状況改善に努めた。
- ・茶話会は、4月5月6月9月10月11月12月の第3木曜日に開催した。
保護者間の情報共有・キッズと保護者との信頼関係構築に大きな役割を果たしている。

3 サービス提供について

- ・開設6年が経過し、充実した職員数の中で事業経営を行うことができた。
- ・今後も職員の資質向上を図るべく研修の強化・研鑽が必要である。
- ・利用希望児童の申し出は多いが、定員に達しているため、待機児童が増えている。
- ・一人一人の児童の状況把握のためには、今後も関係機関(特に学校など)との連携を密に図り支援に生かす必要があると考える。
- ・3事業所(村上・ゆりのき台・ジュニア)になったことで、夏休みのデイキャンプや市内高校生との朗読劇コラボなど合同活動を行うことができた。今までにない活動内容で、こどもたちの中に潜在していた力を引き出し個性を伸ばす良い活動となり、自己肯定感の高まりにつながった。
- ・毎月発行している利用申請書に児童の活動の様子を写真と共に掲載し、保護者に発信した。外出活動はブログにも掲載し発信している。

令和5年度 事業報告

グリーンヒルキッズジュニア

1 事業目標について

稼働率 年間稼働率 81.0%

年間稼働率は、段階的に上がっては来ている。グリーンヒルキッズジュニア利用生徒は感染症の影響なく、活動することができた。急な受診や学校活動で欠席する生徒がいたため、稼働率は100%達成に至らなかった。昨年同様、部活動や委員会活動を優先したので11月までは利用日が自然と減って増やすことはできなかった。子ども達はコロナ禍の状況下での生活から少しずつ解放され、外出イベントも増え、のびのびと子どもらしく過ごすことができた。

2 事業内容について

- ・生徒一人一人に寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。
- ・虐待問題を抱えている生徒や、不登校の生徒には、関係機関と協力して対応している。
関係機関との連携により、生徒が親と切り離された生活から通常の生活に戻り始めた事例は続いている。情報交換と支援が必要である。
- ・茶話会は、感染予防に対する十分な配慮のもと、5月6月9月10月11月12月3月の第3木曜日に8回開催した。

3 サービス提供について

- ・開設2年目を終え、中学生の受け入れ場所として試行錯誤の毎日であった。学習支援・ソーシャルスキルの向上を目指して職員の資質向上を図るべく研修の強化・研鑽や職員のアイデア・工夫が必要である。
- ・利用希望生徒の申し出は多いが、キッズジュニアとしての質を維持し、さらにより良い療育を行うため、待機していただいている状況である。
- ・一人一人の生徒の状況把握のためには、関係機関(特に学校など)との連携は必須であり、今年度はさらに強い連携を図ることを考えている。
- ・外出活動が増え、ブログ等による情報発信ができた。あわせて、毎月発行している利用申請書に生徒の活動の様子を写真と共に掲載し、保護者に発信した。
- ・長期休みなどは、グリーンヒルキッズ(ゆりのき・村上)と合同の活動を行い、ソーシャルスキルの向上に適した取り組みを行うことができ、効果的であった。

令和5年度 グリーンヒル若葉ハウス 事業報告
(自立援助ホーム)

1. 運営状況 (1日付の在所人数)

- ・年間延べ人数 41 名、月平均 3.5 人であった。
- ・新規入所：8 月 2 名の合計 2 名。
- ・退所人数：4 月 2 名、11 月 1 名、2 月 1 名、3 月 1 名の合計 5 名。
- ・一時保護入所：5 月 1 名の合計 1 名。

2. 支援内容について

- ・入所児の構成は、社会人（高卒 18 歳）1 名と高校生（通学・通信）、特別支援学校生であった。
学生生活継続の為の支援、アルバイト先探し、様々な場所での人間関係づくりの支援を行った。
- ・個々の子どもの状況に応じて医療機関への関わりのフォローを行った。

3. 研修（外部）

- ・第 15 回全国自立援助ホーム長研修会（令和 5 年 4 月 26 日～27 日）
- ・全国自立援助ホーム協議会 第 28 回 北海道札幌大会（令和 5 年 10 月 19 日～20 日）

4. 会議

- ・毎月 1 回

5. 年間の利用状況 (1日付在所)

単位：名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
措置	3	2	2	2	2	4	5	4	4	4	3	2	37
一時保護	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	5
合計	3	3	3	3	3	5	5	4	4	4	3	2	42

6. 今後の課題

- ・令和 6 年 1 月 16 日よりホーム長が交代となりました。
色々な事情を抱えた子ども達にあらゆる方向からの支援をするためには、スタッフ同士の繋がりを深め、更なる知識を学ぶことが必須と考える。今後は、テーマを絞らず、色々な研修を受け、スタッフ自身に磨きをかけ結果、子ども達に反映していく事を目指す。

以 上

令和5年度 勝田台地域包括支援センター報告書

1. 勝田台地域高齢者状況（R6.3月末現在）

勝田台生活圏域人口16,309人 高齢者人口5,264人 後期高齢者数3,678人 高齢化率32.28%。

平成26年と早い時期から何年来と高齢化率が34%を超えていた勝田台地域だが、令和2年以降ゆるやかに低下してきている。しかし、後期高齢者における85歳以上の方の伸びは顕著な為、必要な支援が必要な方に行き渡る体制づくりはより一層必要になっている。

2. 事務所来所者状況

1年間に地域包括支援センターへの来所者延べ1,902と前年度より増加。令和5年5月からコロナ感染症が5類に引き下げられ、地域の方や事業所の動きも日常を取り戻してきたことが要因として考えられる。

3. 総合相談事業実績

1年間の総合相談数延べ5,977件で、電話4,047件、来所1,033件、訪問696件。新規相談件数としてはコロナ前の令和元年度879件に比べると、令和5年度965件と増加している。相談内容としては介護保険や介護に関するもの、医療・健康に関する相談が例年どおり多く、相談者としては本人・家族、介護支援専門員からの相談が上位を占める。

4. 権利擁護に関する実績

○消費者被害防止の啓発（居宅介護支援事業所や民生委員へのチラシ配布）

○高齢者虐待対応

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

○個別地域ケア会議実績 6件

○介護支援専門員へのサポート

- ・ケアマネ交流会
- ・ユーアイやちよ勝田台事例検討会
- ・個別のケース相談
- ・多職種連携研修会

○地域包括支援センター啓発活動

- ・みんなの体操広場を通して地域住民へ相談機関としての周知
- ・サンコーポ便りに地域包括支援センターの記事掲載
- ・長寿会、図書館、サロンでの講演
- ・支会や民生委員定例会への参加、活動の周知

○多職種連携

- ・研修参加などを通して関係機関と顔の見える関係づくり、相互理解の推進
- ・八千代市在宅医療・介護連携支援センターへの相談

○地域住民への企画

・みんな体操の広場

健康年齢の延伸を目指し、開催。地域住民に向けて定期的な運動の機会の提供や健康への意識増進のため、中央公園で平日夕方にラジオ体操ややちよ元気体操など実施。年間参加者延べ5,806人。

○地域の団体の後方支援

・お番茶の会 ・ふれあいサロン

6. 介護予防普及啓発事業

○いきいき教室 15回開催

7. 認知症地域支援・ケア向上業務

○認知症サポーター養成講座・・・担い手養成講座にて
八千代高校

○家族交流会 ○認知症ケアパスの活用

○認知症初期集中支援チームとの意見交換

○ともカフェ運営委員会の立ち上げ、ともカフェの運営

8. 第2層生活支援コーディネーター業務

・1層協議体への参加 ・2層協議体の開催

・地域住民の活動支援

・八千代市通所型短期集中予防サービスでの個別支援

9. 介護予防（要支援1・2）プラン作成 実績

1年間国保連請求総数2,181件（地域包括860件・委託1,321件）。

前年度と比べて年間で130件ほど請求数は増加をしたが、委託事業所に支えられた数字となっている。年間新規ケースは89件に上っている。

勝田台地域だけではないが、サービスの利用希望者数に対して、ケアプランを担当できるケアマネジャーが不足しているのは八千代市の課題となっている。

10. 連携のための会議

○運営推進会議

・小規模多機能型居宅介護サテライトグリーンヒル勝田台運営推進会議

・ニチイケアセンター八千代勝田台運営推進会議（書面）

・めいちゃんの家運営推進会議（書面）

・ほのぼの運営推進会議

・ういず・ユウデイサロン運営推進会議

○民生・児童委員定例会議

○地域包括支援センター各専門職会議

令和5年度 本部総務課 事業報告

総務課業務の効率化・コスト削減・リスク管理を検討し、既存システムおよび業務分掌の見直しを図る。

⇒①人事関連データを一元管理するためのシステム導入、②稼働中の勤怠システムのサポート期限が残り1年となるための入れ替え、③勤怠システムと連動した給与システムの構築を図るため、延べ10社から情報収集を行い承認された。令和6年度は、まず①人事労務システムと②勤怠システムから着手し、年内の給与システムとの連動に取り組む予定。

予算内訳

	導入システム	期間	金額	備考
①	人事労務システム	1年買取	250万円/年	
②	勤怠システム	2年買取 1～2年目 3年目～	480万円/年 120万円/年	IT補助金150万円適用
③	給与システム	5年リース	205万円/5年	42,570円/月

効果

人事労務データの一元管理、勤怠管理業務（申請・承認）、給与・年末調整関連業務のペーパーレス化を実現することで作業の効率化・費用削減を図る。

新型コロナウイルス対策

【PCR検査 抗原検査】

令和5年5月8日以降、感染症法上の分類が5類に移行したことにより、PCR検査の実施はせず、抗原検査キットによる感染確認を随時実施した。

＊年間使用キット数約3,000キット

そのうち購入キット数約1,600キット（平均単価1,000円として160万円相当）

令和6年5月現在 残キット数約750キット（令和7年11月までに順次期限切れ）

【感染状況】

職員 陽性者 77名 要観察者 17名

事業所別集団感染状況

グリーンヒル 通所 令和5年12月

グリーンヒル 特養 令和6年1月 3月

グリーンヒル八千代台 特養 令和6年2月

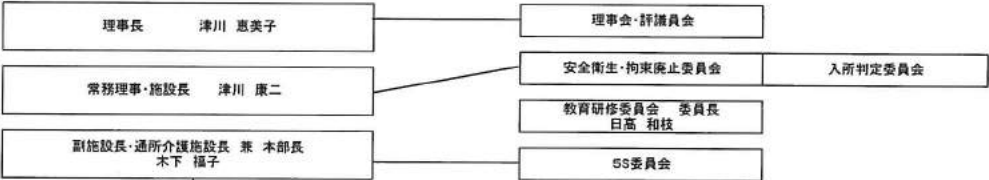
【今後の対応】

基本的な感染対策（出勤時の検温・施設内でのマスク着用・手指消毒・換気等）を継続しながら、段階的に緩和措置を講じコロナ禍前に生活に戻していく。集団感染が生じた際は抗原検査の実施を念頭に置きながら現場と協議・協力の上対応策を検討する。

以上

社会福祉法人 翠耀会
組織図 上高野

令和6年5月16日現在

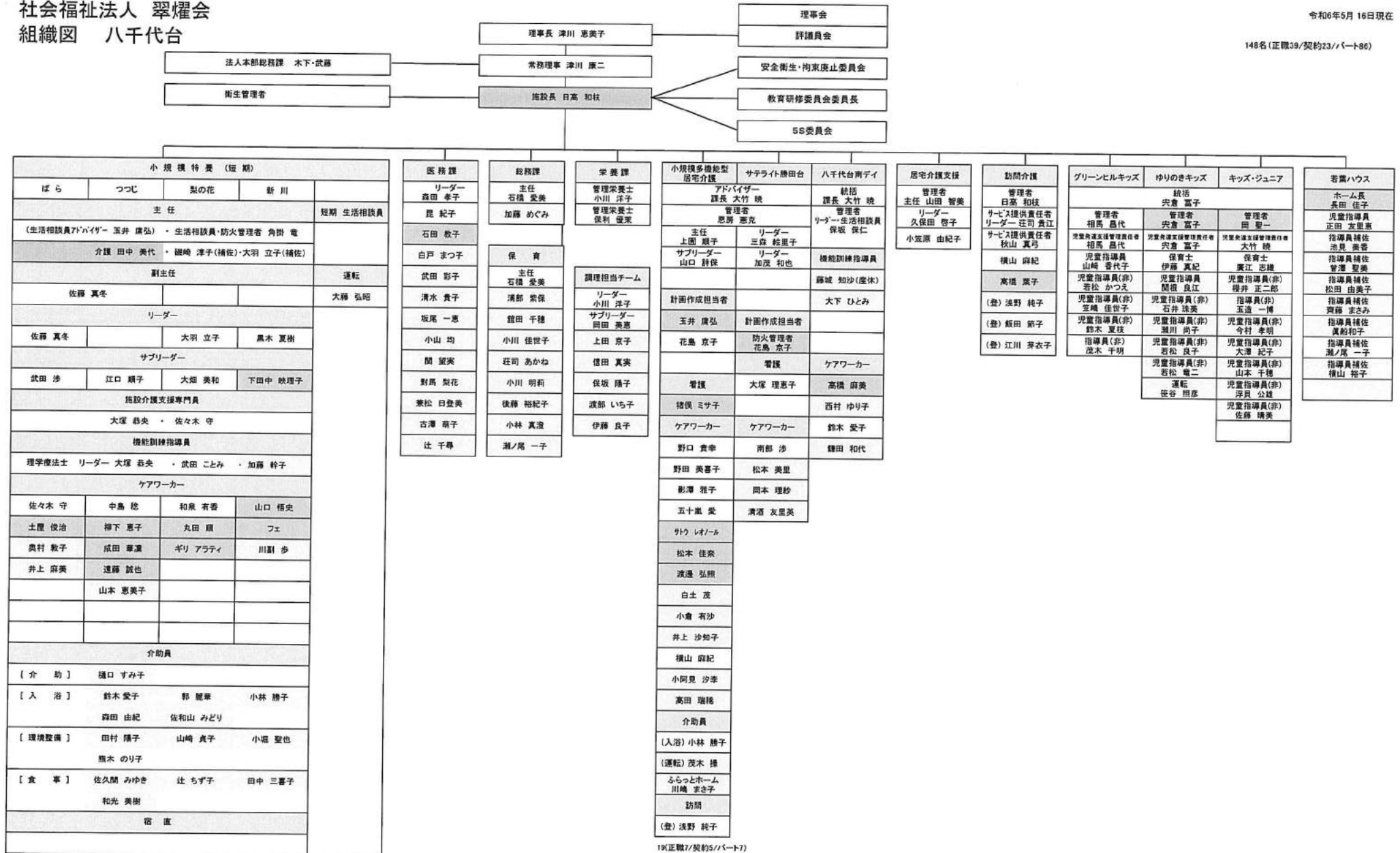


施設サービス課						
津川 康二(担当:虐待防止・介護サービス向上)・日高 和枝(教育研修委員長)						
課 長						
主 任				生活相談員	介護事務	
生活相談員 小柳 信也 ・ 介護 三橋 恵美				藤澤 秀行	主任 秋庭 直子	
1丁目		2丁目		3丁目	作田 麻里子	
すずらん	あやめ	大和	撫子			
副主任				施設介護支援専門員		
新山 哲		一戸 則夫		橋本 仁		リーダー 磯 智子
リーダー				横田 さくら		
角田 里和(産休)	佐藤 優	菊池 智	加藤 伸康	磯 智子	植村 久美	
サブリーダー				短期リーダー		
石塚 達也		柏 和広		浮階 裕之	百瀬 大起 (生活相談員 計画作成担当者)	
機能訓練指導員						
理学療法士 小池 陽子・鍼灸師 吉澤 響・作業療法士 中村・(嘱託)高橋 伸輔						
ケアワーカー				短期運転手		
堀本 由紀子	五十嵐 則子	横田 さくら	瀧田 大介	菊地 雅典	野田 文男	
高橋 直樹	植村 久美	梅津 久美子	佐々木ウィルマ	海老原 栄之	井下 久志	
村瀬 智佳	山下 智也	矢野 誠一	高橋 雄二郎	田邊 桂子	風間 健一	
岡村 紀子	高橋 ソル		リュウ	石渡 幸志		
ミミ	タマシ		ヤミン カラーヤー	穴戸 好美		
成田 由美子	菅野 美智子		アイ サンダ	深水 美幸		
赤松 直美	ファン キエ トン		金山 弘子	鈴木 セキ		
鈴木 秋子	(派)長倉 圭子		(派)鈴木 千絵	東村 正子		
高橋 絵里	(派)渡邊 智世子			藤野 行雄		
	(派)戸村 一裕					
	(派)本田 裕衣					
介助員						
【 環境整備 】	熊木 のり子	白鳥 富子	藤川 タカ子	酒井 理恵		
【 入 浴 】	リーダー 坂口 まどか	高梨 久美子	鳥居 美智子	山下 晴子	茂木 千明	
	山田 純子	島田 桃花	古賀 舞美歌	小野澤 えり子	郭 麗華	
【 食事・清掃 】	松木 孝子	渡部 和子	阿部 富美子	理香 のり子		
宿 直						

社会福祉法人 翠耀会
組織図 八千代台

令和6年5月 16日現在

148名(正職39/契約23/パート86)



19(正職7/契約5/パート7)

2024年度 施設内外研修予定表

月	事業所会議	全体会議 及び(★)サーブ会議	法定研修	教育研修委員会			防災訓練・救命講習	その他 施設外研修等
				人材育成研修	法人全体研修	・認知症・介護過程		
4月	第一会議日・リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★4/5(金)生産性向上推進委員会 ・2023年度 自グループケアの 振り返り(ケアの詳細・改善)	※お茶の水のケアサービス 学院 740-777研修にて実施	※1D0オンラインセミナー 人 材育成メソッド シラバス参照	1日(月)・2日(火) 『新入・中途職者研修』 ・高齢者虐待・身体拘束について ・感染症について	※排泄関係 ※入浴関係 等随時	1日(月)新入・中途入職者 ・防災講義、演習 ・BCP確認	※認知症介護基礎研修 (無資格者) (eラーニングにて)
	第三会議日・感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進		・感染症予防及びまん延防止	お茶の水のケアサービス学院 740-777研修を使用して、随時参加				
5月	5/3 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会	★5/3(金)生産性向上委員会 ・2024年各フロアのケアの 理念の構築	・身体拘束の廃止					
	5/17 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進	全体会議 ・感染予防研修 ・5S会議の経過報告改善等	・食中毒予防及びまん延防止		31日(金) ・認知症とは？(基本) 日高 和枝	※認知症ケアに関する事例検討等については、各ユニット会議・各事業所がいて実施する。 ※認知症介護基礎研修 (無資格者)		
6月	6/7 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★6/7(金)生産性向上委員会	・プライバシーの保護の 取り組み	※口腔ケアの研修 歯科衛生士による実施指導	『2024年度事業計画発表会』 津川理事長・津川常務・全職員 ・高齢者虐待・身体拘束について ・BCP見直し	第1 認知症実践者研修		※身体拘束廃止基礎研修
	6/21 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進		・接遇マナー研修					
7月	7/5 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★7/5(金)生産性向上委員会 ※全体会議	・認知症ケア	※自法人における、介護実務者研修 教室の開校		第1 認知症実践者研修 認知症実践者研修・報告会		※ユニマニチュード研修 ※アセッサー研修
	7/19 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進	・高齢者権利擁護・身体拘束 廃止について ・5S会議の経過報告改善等	・グリーフケア			※身体拘束廃止研修		
8月	8/2 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★8/2(金)生産性向上委員会	・個人情報保護	褥瘡対策に関する継続的教育	27日(火) ・認知症 BPSD 日高 和枝	第2 認知症実践者研修	・交通安全に係る教育 ※『初期消火活動競技大会』 ※『初期消火活動競技大会』 八千代市防災協会 ・通報・初期消火・避難誘導	※ 身体拘束廃止専門課程研修
	8/16 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進		・虐待防止に関する研修 (身体拘束排除)					
9月	9/6 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★9/6(金)生産性向上委員会 ※全体会議	・認知症の予防			千葉県認知症リーダー研修 第2 認知症実践者研修 認知症実践者研修・報告会	・9月2日(月)7:00~9:00予定 『法人全体防災訓練』 非常災害時の避難、救出等 に関する訓練 ・BCPに基づく訓練 八千代台地区防災訓練	※ 身体拘束廃止基礎研修
	9/20 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進	・ターミナルケア(終末期医療) について ・5S会議の経過報告改善等	・身体拘束の廃止					
10月	10/4 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★10/4(金)生産性向上委員会 (ハラスメント防止に係る件 数及び労災等の件数報告)	・事故の発生予防・再発防止 ・リスクマネジメント	『喀痰吸引等実地』に関する継続的研修	・10月1日(火)・2日(水) 『中途入職者研修』 ・高齢者虐待・身体拘束について ・感染症について	千葉県認知症リーダー研修 認知症リーダー研修・報告会 第3 認知症実践者研修 ※認知症介護基礎研修 (無資格者)	・10月1日(火)中途入職者対象 ・防災講義、演習 ・BCP確認	※ 身体拘束廃止基礎研修
	10/19 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進		・感染症予防及びまん延防止					
11月	11/1 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★11/1(金)生産性向上委員会 ※全体会議	・認知症ケア		・高齢者・障害者施設向け 感染予防研修及び実地訓練	第3 認知症実践者研修 認知症実践者研修・報告会	勝田台地区防災訓練 サンコーボ自治会と協働	※ 身体拘束廃止管理者研修
	11/15 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進	・感染症及び食中毒の発生 の予防に関する研修 ・5S会議の経過報告改善等	・緊急時対応					
12月	12/6 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★12/6(金)生産性向上委員会	・雪取り期に関する研修		『2024年度事業計画中間報告会』 津川理事長・津川常務・全職員 ・高齢者虐待・身体拘束について ・BCP見直し	第4 認知症実践者研修		※ 身体拘束廃止専門課程研修
	12/20 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進		・虐待防止に関する研修	※口腔ケアの研修 歯科衛生士による実施指導				
1月	1/10 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★1/10(金)生産性向上委員会 ※全体会議	・非常災害時対応		28日(火) ・認知症ケア 日高 和枝	第4 認知症実践者研修 認知症実践者研修・報告会	『夜間想定防災訓練』 ・避難誘導 ・非常災害時の対応に関する研修	※ 身体拘束廃止指導者研修
	1/17 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進	・リスクマネジメント研修 ・5S会議の経過報告改善等	・虐待防止に関する研修					
2月	2/7 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★2/7(金)生産性向上委員会	・指導側接遇マナー研修	『喀痰吸引等実地』に関する継続 的研修		第5 認知症実践者研修	サテライト勝田台防災訓練 サンコーボ自治会と協働	「認知症にかかわる専門職の多職種 協働研修」
	2/21 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等		・虐待防止に関する研修					
3月	3/7 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★3/7(金)生産性向上委員会 ※全体会議	・倫理及び法令遵守		・家族交流会	第5 認知症実践者研修 認知症実践者研修・報告会	防災・安全管理研修 「救命講習」	
	3/21 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進	・法令遵守・秘密保持及び倫理に 関する研修 ・5S会議の経過報告改善等	・介護予防研修					

※リスクマネジメント・・・事故防止検討委員会